



icpif through irq global-request

- [icpif](#) (3 ページ)
- [id](#) (4 ページ)
- [idle-voltage](#) (6 ページ)
- [ignore](#) (7 ページ)
- [ignore \(interface\)](#) (9 ページ)
- [image encoding](#) (11 ページ)
- [image resolution](#) (13 ページ)
- [impedance](#) (15 ページ)
- [inband-alerting](#) (17 ページ)
- [inbound ttl](#) (19 ページ)
- [incoming alerting](#) (21 ページ)
- [incoming called-number \(call filter match list\)](#) (23 ページ)
- [incoming called-number \(dial peer\)](#) (25 ページ)
- [incoming calling-number \(call filter match list\)](#) (28 ページ)
- [incoming dialpeer](#) (30 ページ)
- [incoming media local ipv4](#) (32 ページ)
- [incoming media remote ipv4](#) (34 ページ)
- [incoming port](#) (36 ページ)
- [incoming secondary-called-number](#) (39 ページ)
- [incoming signaling local ipv4](#) (42 ページ)
- [incoming signaling remote ipv4](#) (44 ページ)
- [incoming uri](#) (46 ページ)
- [index \(voice class\)](#) (49 ページ)
- [info-digits](#) (51 ページ)
- [information-type](#) (53 ページ)
- [inject guard-tone](#) (55 ページ)
- [inject pause](#) (56 ページ)
- [inject tone](#) (57 ページ)
- [input gain](#) (59 ページ)
- [intensity](#) (61 ページ)

- interface (RLM server) (62 ページ)
- interface Dchannel (64 ページ)
- interface event-log dump ftp (66 ページ)
- interface event-log error only (68 ページ)
- interface event-log max-buffer-size (70 ページ)
- interface max-server-records (72 ページ)
- interface stats (73 ページ)
- interop-handling permit request-uri userid none (75 ページ)
- ip address trusted (76 ページ)
- ip circuit (78 ページ)
- ip dhcp-client forcerenew (80 ページ)
- ip precedence (dial-peer) (81 ページ)
- ip qos defending-priority (82 ページ)
- ip qos dscp (84 ページ)
- ip qos policy-locator (88 ページ)
- ip qos preemption-priority (91 ページ)
- ip rtcp report interval (93 ページ)
- ip rtcp sub-rtcp (94 ページ)
- ip udp checksum (95 ページ)
- ip vrf (96 ページ)
- ip vrf forwarding (97 ページ)
- irq global-request (98 ページ)

icpif

ダイヤルピアによって送信されるコールの Calculated Planning Impairment Factor (ICPIF) を指定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **icpif** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

icpif *number*
no icpif

構文の説明

<i>number</i>	ICPIF 値を指定する整数（装置の減損係数単位）。範囲は 0 ～ 55 です。デフォルトは 20 です。
---------------	---

コマンド デフォルト

20

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.2(8)T	このコマンドの数値のデフォルト値が 30 から 20 に変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、VoIP ダイヤルピアにのみ適用できます。

このコマンドを使用して、選択したダイヤルピアによって送信される音声コールの最大許容減損係数を指定します。

例

次の例では、**icpif** コマンドを無効化しています。

```
dial-peer voice 10 voip
  icpif 0
```

id

ネイバーボーダーエレメント (BE) のローカル ID (ID) を設定するには、Annex G ネイバーボーダーエレメント (BE) コンフィギュレーションモードで **id** コマンドを使用します。ローカル ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

id neighbor-id
no id neighbor-id

構文の説明

<i>neighbor-id</i>	ネイバー BE の ID。識別 ID は、International Alphabet 5 (IA5) 文字列である必要があり、余白文字を含めることはできません。この識別子はローカルであり、ボーダー要素 ID とは関係ありません。
--------------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

Annex G ネイバー BE コンフィギュレーション (config-annexg-neigh)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400 でサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 で実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

例

次の例では、ネイバー BE のローカル ID を設定しています。識別子は 2333 です。

```
Router(config-annexg-neigh)# id 2333
```

次の例では、未定義のネイバー ID が入力された場合のエラー応答を示しています。

```
Router(config-annexg-neigh)#no id def
```

```
% Entry not valid, id not configured.  
To deconfigure id under different neighbor you have to explicitly go into that neighbor  
and deconfigure the id.
```

関連コマンド

コマンド	説明
advertise (annex G)	BE がネイバーにアドバタイズする記述子のタイプを制御します。

コマンド	説明
port	Annex G メッセージの交換に使用されるネイバーのポート番号を設定します。
query -interval	ローカル BE がネイバー BE をクエリする間隔を設定します。

idle-voltage

Foreign Exchange Station (FXS) 音声ポートのアイドル電圧を指定するには、音声ポート コンフィギュレーション モードで **idle-voltage** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

idle-voltage {**high** | **low**}
no idle-voltage

構文の説明

high	FXS ポートがアイドル状態の場合、通話バッテリー電圧 (チップからリング) は高くなります (-48V)。
low	FXS ポートがアイドル状態の場合、通話バッテリー電圧 (チップからリング) は低くなります (-24V)。

コマンド デフォルト

アイドル電圧は -24V です。

コマンド モード

音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(4)T	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。

使用上のガイドライン

FAX デバイスおよび留守番電話には、並列接続されている電話のオフフック状態を検出するために、-48V のアイドル電圧が必要な場合があります。

アイドル電圧設定が **high** の場合、音声ポートがアクティブ (オフフック) になると、通話バッテリーは -24V に戻ります。

例

次の例では、音声ポート 1/1 でアイドル電圧を -48V に設定しています。

```
voice-port 1/1
 idle-voltage high
```

次の例では、音声ポート 1/1 のデフォルトのアイドル電圧 (-24V) を復元しています。

```
voice-port 1/1
 no idle-voltage
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voice port	音声ポート コンフィギュレーションの情報を表示します。

ignore

特定の受信ビットを無視するように北米の E&M または E&M MELCAS 音声ポートを設定するには、音声ポート コンフィギュレーション モードで **ignore** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ignore {rx-a-bit | rx-b-bit | rx-c-bit | rx-d-bit}
no ignore {rx-a-bit | rx-b-bit | rx-c-bit | rx-d-bit}
```

構文の説明

rx -a-bit	受信 A ビットを無視します。
rx -b-bit	受信 B ビットを無視します。
rx -c-bit	受信 C ビットを無視します。
rx -d-bit	受信 D ビットを無視します。

コマンド デフォルト

デフォルトはモードによって異なります。

- 北米 E&M :
 - 受信 B、C、D ビットは無視されます。
 - 受信 A ビットは無視されません
- E&M MELCAS :
 - 受信 A ビットは無視されます。
 - 受信 B、C、D ビットは無視されません。

コマンド モード

音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに追加されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

ignore コマンドは、T1/E1 コントローラに関連付けられた E&M デジタル音声ポートに適用されます。設定された受信ビットごとにコマンドを繰り返します。このコマンドは、**define** コマンドとともに使用します。

例

受信ビット A、B、C を無視し、受信ビット D をモニタリングするように音声ポート 1/1 を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
voice-port 1/1
 ignore rx-a-bit
 ignore rx-b-bit
 ignore rx-c-bit
 no ignore rx-d-bit
```

受信ビット A、C、D を無視し、受信ビット B をモニタリングするように音声ポート 1/0/0 を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
voice-port 1/0/0
 ignore rx-a-bit
 ignore rx-c-bit
 ignore rx-d-bit
 no ignore rx-b-bit
```

関連コマンド

コマンド	説明
condition	すべての音声シグナリングタイプのシグナリングビットパターンを操作します。
define	北米 E&M および E&M MELCAS 音声シグナリングの送受信ビットを定義します。
show voice port	音声ポートの設定情報を表示します。

ignore (interface)

回線のアップ/ダウンのインジケータとして指定されたシリアル信号を無視するようにシリアルインターフェイスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ignore** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

DCE 非同期モード

```
ignore [{dtr | rts}]
no ignore [{dtr | rts}]
```

DCE 同期モード

```
ignore [{dtr | local-loopback | rts}]
no ignore [{dtr | local-loopback | rts}]
```

DTE 非同期モード

```
ignore [{cts | dsr}]
no ignore [{cts | dsr}]
```

DTE 同期モード

```
ignore [{cts | dcd | dsr}]
no ignore [{cts | dcd | dsr}]
```

構文の説明

dtr	DCEがデータターミナルレディ（DTR）信号を無視するように指定します。
rts	DCEが送信要求（RTS）信号を無視するように指定します。
local-loopback	DCEがローカルループバック信号を無視するように指定します。
cts	DTEが送信化（CTS）信号を無視するように指定します。
dsr	DTEがデータセットレディ（DSR）信号を無視するように指定します。
dcd	DTEがデータキャリア検出（DCD）信号を無視するように指定します。

コマンド デフォルト

このコマンドの **no** 形式はデフォルトです。シリアルインターフェイスでは、回線のアップ/ダウンのインジケータとして DSR 信号をモニタリングしています。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(15)ZJ	このコマンドが Cisco 2610XM、Cisco 2611XM、Cisco 2620XM、Cisco 2621XM、Cisco 2650XM、Cisco 2651XM、Cisco 2691、Cisco 3631、Cisco 3660、Cisco 3725、Cisco 3745 ルータのプラットフォームに導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン DTE モードでのシリアルインターフェイス

シリアルインターフェイスがDTEモードで動作している場合、回線アップ/ダウンのインジケータとして、DCD信号をモニタリングします。デフォルトでは、DCEデバイスはDCD信号を送信します。DTEインターフェイスは、DCD信号を検出すると、インターフェイスの状態をアップ状態に変更します。

SDLC マルチドロップ環境

Synchronous Data Link Control (SDLC) など、一部の構成では、DCE デバイスはインターフェイスの活動を妨げる DCD 信号ではなく、DSR 信号を送信します。このコマンドを使用して、インターフェイスが回線アップ/ダウンのインジケータとして DCD 信号ではなく DSR 信号をモニタリングするように設定します。

例

次の例では、回線アップ/ダウンのインジケータとして DCD 信号を無視するようにシリアルインターフェイス 0 を設定する方法を示しています。

```
Router(config)# interface serial 0
Router(config-if)# ignore dcd
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug serial lead-transition	すべての機能ポートのリード状態移行デバッグ機能をアクティブにします。
show interfaces serial	シリアル インターフェイスに関する情報を表示します。

image encoding

Multimedia Mail over IP (MMoIP) ダイアルピアに関連付けられた FAX イメージのエンコードメソッドを指定するには、ダイアルピア コンフィギュレーション モードで **image encoding** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

image encoding {mh | mr | mmr | passthrough}
no image encoding {mh | mr | mmr | passthrough}

構文の説明

mh	Modified Huffman (MH) イメージエンコーディング。これは IETF 標準規格です。
mr	Modified Read (MR) イメージエンコーディング。
mmr	Modified Modified Read (MMR) イメージエンコーディング。
passthrough	エンコードメソッドによってイメージは変更されません。

コマンド デフォルト

パススルーエンコーディング

コマンド モード

ダイアルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.0(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(4)T に統合されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 のプラットフォームに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、特定の MMoIP ダイアルピアの電子メールによる TIFF イメージのエンコードメソッドを指定します。このコマンドは、主にオンランプ MMoIP ダイアルピアに適用されます。オプションでオフランプダイアルピアを作成し、そのオフランプコールレグに特定のイメージエンコーディングの値を設定できますが、ストアアンドフォワード FAX はオフランプ MMoIP 設定を無視し、Modified Huffman (MH) エンコーディングでファイルを送信します。

使用可能なエンコードメソッドは 4 種類あります。

- **Modified Huffman (MH)** -- 一方向 (水平) のみにデータを圧縮する 1 次元データ圧縮スキーム。Modified Huffman (MH) 圧縮では、冗長データの送信は許可されません。このエンコードメソッドでは、最大のイメージファイルサイズを生成します。
- **Modified Read (MR)** -- 垂直線のデータ圧縮を処理し、行間および特定の文字内の余白文字に集中する 2 次元データ圧縮スキーム (FAX デバイスで使用)。
- **Modified Modified Read (MMR)** -- 新しいグループ 3 FAX デバイスで使用されるデータ圧縮デバイス。このエンコードメソッドは、イメージファイルサイズを可能な限り小さく生成し、Modified Read (MR) よりも多少効率的です。
- **パススルー** -- イメージに符号化メソッドは適用されません。つまり、FAX デバイスで使用されている符号化メソッドによってイメージが符号化されます。

FAX の TIFF イメージ送信用 IETF 標準規格は、高解像度または標準解像度の Modified Huffman (MH) エンコーディングです。RFC 2301 では、準拠する受信機が MH エンコーディングの TIFF イメージで、高解像度または標準解像度をサポートする必要があります。受信者がこの最小要件を超える機能をサポートしている場合は、その受信者に高品質のドキュメントを送信するように Cisco AS5300 ユニバーサル アクセスサーバーを設定できます。

MH とは異なるエンコードスキームを使用する主な理由は、ネットワーク帯域幅を節約することです。MH は、すべてのインターネット FAX デバイスとの相互運用性を保証しますが、FAX の TIFF イメージを送信するエンコードスキームの中で最も効率的が悪いです。ほとんどのイメージでは、MR は MH よりも効率的であり、MMR は MR よりも効率的です。受信者が MH よりも効率的なエンコードメソッドを受信できることがわかっている場合、ストアアンドフォワード FAX を使用すると、受信者が処理可能な最も効率的なエンコードスキームで送信できます。エンドツーエンドのクローズドネットワークの場合、オフランプゲートウェイは MH、MR、MMR を処理できるため、任意のエンコードスキームを選択できます。

また、表示ソフトウェアも重要な考慮事項となります。多くの表示アプリケーション (たとえば、Windows 95 や Windows NT に付属のアプリケーション) は、MH、MR、MMR を表示できます。したがって、表示アプリケーションと使用可能な帯域幅に基づいて、ネットワークに適したエンコードスキーム式を決定する必要があります。

このコマンドは、オンランプとオフランプの両方のストアアンドフォワード FAX 機能に適用されます。

例

次の例では、MMoIP ダイアルピア 10 によって送信される FAX の TIFF イメージのエンコードメソッドとして、Modified Modified Read (MMR) を選択しています。

```
dial-peer voice 10 mmoip
  image encoding mmr
```

関連コマンド

Command	Description
image resolution	特定の MMoIP ダイアルピアの FAX イメージの解像度を指定します。

image resolution

特定の Multimedia Mail over IP (MMoIP) ダイアルピアに特定の FAX イメージ解像度を指定するには、ダイアルピア コンフィギュレーションモードで **image resolution** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

image resolution {**fine** | **standard** | **superfine** | **passthrough**}

no image resolution {**fine** | **standard** | **superfine** | **passthrough**}

構文の説明

fine	FAX の TIFF イメージの解像度を 204 x 196 ピクセル/インチに設定します。
standard	FAX の TIFF イメージの解像度を 204 x 98 ピクセル/インチに設定します。
superfine	FAX の TIFF イメージの解像度を 204 x 391 ピクセル/インチに設定します。
passthrough	FAX の TIFF イメージの解像度が変更されていないことを示します。

コマンド デフォルト

パススルー

コマンド モード

ダイアルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.0(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(4)T に統合されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 アクセスルータに導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600、Cisco 3725、Cisco 3745 のプラットフォームに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、指定した MMoIP ダイアルピアによって送信される電子メールによる TIFF イメージの解像度 (1 インチあたりのピクセル数) を指定します。このコマンドは、主にオンランプ MMoIP ダイアルピアに適用されます。オプションでオフランプダイアルピアを作成し、そのオフランプコールレグに特定のイメージ解像度の値を設定できますが、ストアアンドフォワード FAX はオフランプ MMoIP 設定を無視し、高解像度でファイルを送信します。

このコマンドを使用すると、FAX の TIFF イメージの解像度を上下できます。これにより、FAX の TIFF ファイルの解像度だけでなく、サイズも変更されます。FAX の TIFF イメージ送

信用 IETF 標準規格は、高解像度または標準解像度の Modified Huffman (MH) エンコーディングです。異なる像度を設定する主な理由は、ネットワークの帯域幅を節約するためです。

このコマンドは、オンランプとオフランプの両方のストアアンドフォワード FAX 機能に適用されます。

例

次の例では、MMoIP ダイアルピア 10 に関連付けられた電子メールによる TIFF イメージに高解像度 (1 インチあたり 204 x 196 ピクセル) を選択しています。

```
dial-peer voice 10 mmoip
  image encoding mh
  image resolution fine
```

関連コマンド

Command	Description
image encoding	MMoIP ダイアルピアに関連付けられた FAX イメージのエンコードメソッドを指定します。

impedance

音声ポートインターフェースの終端インピーダンスを指定するには、音声ポートコンフィギュレーションモードで **impedance** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

impedance {600c | 600r | 900c | 900r | complex1 | complex2 | complex3 | complex4 | complex5 | complex6}
no impedance {600c | 600r | 900c | 900r | complex1 | complex2 | complex3 | complex4 | complex5 | complex6}

構文の説明

600c	600 オーム + 2.15uF ¹ 。
600r	抵抗性 600 オーム終端。
900c	900 オーム + 2.15uF ² 。
900r	抵抗性 900 オーム終端。
complex1	220 オーム + (820 オーム 115 nF) ³ 。
complex2	270 オーム + (750 オーム 150 nF) ⁴ 。
complex3	370 オーム + (620 オーム 310 nF) ⁵ 。
complex4	600r、回線 = 270 オーム + (750 オーム 150 nF) ⁶ 。
complex5	320 + (1,050 オーム 230 nF) 、回線 = 12 Kft ⁷ 。
complex6	600r、回線 = 350 + (1,000 オーム 210 nF) ⁸ 。

- ¹ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ² プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ³ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ⁴ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ⁵ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ⁶ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ⁷ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します
- ⁸ プラス記号 (+) はシリアルを示します。二重パイプ (||) はパラレルを示します

コマンドデフォルト

600r

コマンドモード

音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。

リリース	変更内容
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.3(7)T に統合され、Cisco 2600XM シリーズ、Cisco 2691、Cisco 2800 シリーズ、Cisco 3662 (telco モデル)、Cisco 3700 シリーズ、Cisco 3800 シリーズで、 complex3 、 complex4 、 complex5 、 complex6 キーワードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、アナログテレフォニーインターフェイスの終端インピーダンスを指定します。インピーダンス値は、接続先の電話システムの仕様と一致する必要があります。国によってインピーダンスの規格が異なることがよくあります。米国の CO スイッチは主に 600r です。米国の PBX は 600r または 900c です。



- (注) シンタックス説明の値は、インピーダンスの完全なセットを表しています。ここに示すインピーダンス値の完全なセットを、すべてのモジュールがサポートしているわけではありません。モジュールで使用できるインピーダンス値を確認するには、コマンドラインインターフェイスで、`[impedance ?]` と入力します。

インピーダンスが正しく設定されていない場合（インピーダンスの不一致がある場合）、大きなエコーが発生します（**echo-cancel** コマンドが有効化されている場合はマスクされる可能性があります）。さらに、インピーダンスの不整合があると、ゲインが正しく機能しない可能性もあります。

音声ポートのインピーダンスを設定すると、VPM カードの両方の音声ポートのインピーダンスが変更されます。新しい値を有効化するには、この音声ポートをシャットダウンしてから開く必要があります。

例

次の例では、Cisco 3600 シリーズルータの FXO 音声ポートを 600 オーム（実数）のインピーダンスに設定しています。

```
voice-port 1/0/0
impedance 600r
shutdown/no shutdown
```

次の例では、**complex3** のインピーダンス用に Cisco 2800 の E&M 音声ポートを設定しています。

```
voice-port 1/1
impedance complex3
shutdown/no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice-port	音声ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
echo-cancel enable	インターフェイスから送信され、同じインターフェイスで受信された音声をキャンセルできるようにします。

inband-alerting

インバンドアラートを有効化するには、SIP ユーザーエージェント コンフィギュレーション モードで **inbandalerting** コマンドを使用します。インバンドアラートを無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inband-alerting
no inband-alerting

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

有効

コマンド モード

SIP UA コンフィギュレーション (config-sip-ua)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	このコマンドが導入されました。
12.1(3)T	このコマンドは、インバンドアラートの有効化と無効化に限定されていました。
12.2(2)XA	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

インバンドアラートが有効化されている場合、発信ゲートウェイは (SDP 本文を含む 180 または 183 メッセージを受信すると) アーリーメディアパスを開くことができます。コールが接続される前に、インバンドアラートでは終端ゲートウェイまたはスイッチによってトーンまたはアナウンスをフィードできます。インバンドアラートが無効化されている場合、発信ゲートウェイでローカルアラートが生成されます。

このコマンドをデフォルト値に戻すには、**default** コマンドを使用します。

例

次の例では、インバンドアラートを無効化しています。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# no inband-alerting
```

関連コマンド

コマンド	説明
default	コマンドをデフォルトに設定します。
exit	SIP ユーザーエージェント コンフィギュレーション モードを終了します。

コマンド	説明
max-forwards	リクエストの最大ホップ数を指定します。
no	コマンドを無効にするか、デフォルト値を設定します。
retry	再試行の SIP シグナリングタイマーを設定します。
timers	SIP シグナリングタイマーを設定します。
transport	TCP/UDP の SIP UA トランスポートを有効化します。

inbound ttl

インバウンドの存続可能時間の値を設定するには、Annex G ネイバーサービス コンフィギュレーション モードで **inbound ttl** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inbound ttl *ttl-value*
no inbound ttl

構文の説明	<i>ttl-value</i>	インバウンド存続可能時間 (TTL) 値 (秒単位)。範囲は 0 ~ 2,147,483 です。0 に設定すると、サービス関係は期限切れになりません。デフォルトは 120 です。
-------	------------------	---

コマンド デフォルト 120 秒

コマンド モード Annex G ネイバーサービス コンフィギュレーション (config-nxg-neigh-svc)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン サービス関係は一方方向であると定義されています。境界要素 A と境界要素 B の間にサービス関係を確立すると、A は B に要求を送信し、応答を待機できます。B が要求を A に送信し、応答を待機するには、2 番目のサービス関係を確立する必要があります。A の観点からは、B が A と確立するサービス関係は「インバウンド」サービス関係と呼ばれます。この コマンドを使用して、サービス関係に参加する境界要素間の関係の期間を示します。

例

次の例では、インバウンドの存続可能時間の値を 420 秒 (7 分) に設定しています。

```
Router(config-nxg-neigh-svc)#
inbound ttl 420
```

関連コマンド	コマンド	説明
	access-policy	ネイバーを明示的に設定する必要があります。
	outbound retry-interval	境界要素間のアウトバウンド関係の確立を試行するための再試行期間を定義します。
	retry interval	配信試行間の時間を定義します。
	retry window	ボーダー要素が配信を試行する合計時間を定義します。
	service-relationship	2 つの境界要素間のサービス関係を確立します。

コマンド	説明
shutdown	ボーダー要素を有効化または無効化します。

incoming alerting

着信コール検出メソッドを変更するように FXO グラウンドスタート音声ポートに指示するには、音声ポート コンフィギュレーション モードで **incoming alerting** コマンドを使用します。コール検出メソッドをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

incoming alerting ring-only
no incoming alerting

構文の説明

ring-only	着信コールをカウントして、ルータが応答する必要のある音声ポートへの着信コールを検出します。
------------------	---

コマンドデフォルト

FXO グラウンドスタート音声ポートは、PSTN セントラルオフィス (CO) によって回線に印加されたリング電圧を検出するか、チップグラウンドが約7秒以上存在することを検出することで着信コールを検出します。

コマンドモード

音声ポート コンフィギュレーション (config-voiceport)

コマンド履歴

Cisco IOS Release	変更内容
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、**signal ground-start** コマンドで設定された FXO ポートでのみ有効です。

このコマンドは、着信 PSTN/FXO グラウンドスタート回線に冗長フェールオーバーを提供するために 2 つの Cisco Unified CallManager Express (Cisco Unified CME) ルータが使用されている場合に必要です。これらのトランク回線の音声ポートは、2 つのルータ間で並列に配線されています。プライマリルータは、デフォルトで最初の呼び出し音の後に着信コールに応答するように設定されています。セカンダリルータは、音声ポート コンフィギュレーション モードで **ring number** コマンドを使用して、2 回または 3 回の呼び出し音の後に着信コールに応答するように設定されています。プライマリルータが動作している限り、セカンダリルータでは呼び出しに応答するのに十分な呼び出し音を認識することはありません。プライマリルータが動作していない場合、セカンダリルータでは着信呼び出し信号を検出して、コールに応答できるようにする必要があります。デフォルトの着信コール検出メソッドは、セカンダリ Cisco Unified CME ルータの音声ポートには適していません。**incoming alerting ring-only** コマンドを使用して、音声ポートがデフォルトのコール検出メソッドを使用する代わりに、着信コールの呼び出し回数をカウントするように着信コール検出ロジックを変更する必要があります。

例

次の例では、FXO グラウンドスタートの音声ポート 3/0/0 の着信コールの検出メソッドを、呼び出し専用 (ring-only) に設定しています。

```
Router(config)# voice-port 3/0/0
Router(config-voiceport)# signal ground-start
Router(config-voiceport)# incoming alerting ring-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
ring number	ルータが着信コールに応答する前に検出されるリングの最大数を指定します。
signal	音声ポートのシグナリングタイプを指定します。

incoming called-number (call filter match list)

着信着信番号のデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルター一致リストコンフィギュレーションモードで **incoming called-number** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

incoming called-number {[+]} *string* {[**T**]}

no incoming called-number {[+]} *string* {[**T**]}

構文の説明

+	(オプション) E.164 の標準的な番号を示す文字。
<i>string</i>	<p>E.164 の電話番号またはプライベートダイヤルプランの電話番号パターンを指定する一連の数字。有効なエントリは、0～9の数字、A～Dの文字、および次の特殊文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) : 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されます。 • カンマ (,) : 数字の間に一時停止を挿入します。 • ピリオド (.) : 入力された任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。 • パーセント記号 (%) : 直前の数字が 0 回以上発生したことを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 • プラス記号 (+) : 直前の数字が 1 回以上出現したことを示します。 <p>(注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示す、数字列の前に使用できるプラス記号とは異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曲折アクセント (^) : 文字列の先頭に一致することを示します。 • ドル記号 (\$) : 入力文字列の末尾の null 文字列に一致します。 • バックスラッシュ記号 (\) : この記号の後に単一の文字が続き、その文字に一致します。他の意味を持たない単一の文字で使用できます (その文字と一致します)。 • 疑問符 (?) : 前の数字が 0 回または 1 回出現したことを示します。 • ブラケット ([]) : 範囲を示します。範囲は、ブラケットで囲まれた一連の文字です。範囲には 0～9 の数字のみを使用できます。 • 括弧 (()) : パターンを示します。正規表現ルールと同じです。
T	(オプション) destination-pattern 値が可変長のダイヤル文字列であることを示す制御文字。この制御文字を使用すると、ルータでは、すべての桁を受信するまで待機してからコールをルーティングできます。

コマンド デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、着信中の着信番号 5550123 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming called-number 5550123
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルター一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
incoming calling-number	着信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming dialpeer	着信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
incoming secondary-called-number	2 ステージシナリオの第 2 ステージからの着信番号のデバッグフィルタ処理を設定します。
outgoing called-number	発信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing calling-number	発信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing dialpeer	発信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming called-number (dial peer)

着信コールをダイヤルピアに関連付けるために使用する数字列を指定するには、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードで **incoming called-number** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

incoming called-number {[+]} *string* {[**T**]}
no incoming called-number {[+]} *string* {[**T**]}

構文の説明

+	(オプション) E.164 の標準的な番号を示す文字。
<i>string</i>	<p>E.164 の電話番号またはプライベートダイヤルプランの電話番号パターンを指定する一連の数字。有効なエントリは、0～9の数字、A～Dの文字、および次の特殊文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) : 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されます。 • カンマ (,) : 数字の間に一時停止を挿入します。 • ピリオド (.) : 入力された任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。 • パーセント記号 (%) : 直前の数字が 0 回以上発生したことを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 • プラス記号 (+) : 直前の数字が 1 回以上出現したことを示します。 <p>(注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示す、数字列の前に使用できるプラス記号とは異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曲折アクセント (^) : 文字列の先頭に一致することを示します。 • ドル記号 (\$) : 入力文字列の末尾の null 文字列に一致します。 • バックスラッシュ記号 (\) : この記号の後に単一の文字が続き、その文字に一致します。他の意味を持たない単一の文字で使用できます (その文字と一致します)。 • 疑問符 (?) : 前の数字が 0 回または 1 回出現したことを示します。 • ブラケット ([]) : 範囲を示します。範囲は、ブラケットで囲まれた一連の文字です。範囲には 0～9 の数字のみを使用できます。 • 括弧 (()) : パターンを示します。正規表現ルールと同じです。
T	(オプション) destination-pattern 値が可変長のダイヤル文字列であることを示す制御文字。この制御文字を使用すると、ルータでは、すべての桁を受信するまで待機してからコールをルーティングできます。

コマンド デフォルト 着信番号が定義されていません

コマンド モード ダイアル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3NA	このコマンドが Cisco AS5800 に導入されました。
12.0(4)XJ	このコマンドは、ストアアンドフォワードFAX用に変更されました。
12.0(4)T	このコマンドはCisco IOS リリース 12.0(4)Tに統合されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 のプラットフォームに導入されました。
Cisco IOS XE Release 3.3S	このコマンドは Cisco IOS XE リリース 3.3S に統合されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルのサポートが開始されました。

使用上のガイドライン

Cisco デバイスによってモデムコールと音声コールの両方を処理している場合、コールのサービスタイプ、つまり、サーバーへの着信コールがモデムか音声コールかを識別する必要があります。アクセスサーバーがモデムコールのみを処理する場合、サービスタイプの識別はモデムプールを介して処理されます。モデムプールは、Dial Number Identification Service (DNIS) に基づいて、コールをモデムリソースに関連付けます。サーバーがモデムコールと音声コールの両方を受信する混合環境では、このコマンドを使用してコールのサービスタイプを識別する必要があります。

このコマンドを使用しない場合、サーバーでは、着信したインターフェイスに基づいて、着信コールがモデムまたは音声コールのどちらであるか、解決を試行します。モデムプールに関連付けられたインターフェイスを介してコールが着信した場合、そのコールはモデムコールであると見なされます。ダイヤルピアに関連付けられた音声ポートを介してコールが着信した場合、そのコールは音声コールであると見なされます。

デフォルトでは、ダイヤルピアに関連付けられた着信番号はありません。つまり、着信コールは、発信番号と応答アドレス、コール番号と接続先パターン、または設定されたインターフェイスを持つ発信インターフェイスを照合することによって、ダイヤルピアに関連付けられません。

このコマンドを使用して、特定のダイヤルピアの接続先電話番号を定義します。オンランプ POTS ダイヤルピアの場合、この電話番号は着信 FAX コールの DNIS 番号です。オフランプ MMoIP ダイヤルピアの場合、この電話番号は接続先 FAX マシンの電話番号です。

このコマンドは、VoIP と POTS の両方のダイヤルピア、およびオンランプおよびオフランプのストアアンドフォワード FAX 機能に適用されます。

また、このコマンドは、名前付きシグナリングイベント (NSE) による FAX またはモデムパススルーが終端ゲートウェイでグローバルに定義されている場合に、着信番号に基づいて一致する VoIP ダイヤルピアを提供するために使用されます。

次のコマンドを使用すると、すべてのコールが少なくとも1つのダイヤルピアと一致することを確認できます。

```
Router(config)# dial-peer voice tag voip
Router(config-dial-peer)# incoming called-number.
```

例

次の例では、着信番号が 555-0163 のルータに着信するコールを音声コールとして設定しています。

```
dial-peer voice 10 pots
  incoming called-number 5550163
```

次の例では、番号 (310) 555-0142 を MMoIP ダイヤルピア 10 の着信着信番号として設定しています。

```
dial-peer voice 10 mmoip
  incoming called-number 3105550142
```

incoming calling-number (call filter match list)

着信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタ一致リストコンフィギュレーションモードで **incoming calling-number** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

incoming calling-number {[+]} *string* {[T]}
no incoming calling-number {[+]} *string* {[T]}

構文の説明

+	(オプション) E.164 の標準的な番号を示す文字。
<i>string</i>	<p>E.164 の電話番号またはプライベートダイヤルプランの電話番号パターンを指定する一連の数字。有効なエントリは、0～9の数字、A～Dの文字、および次の特殊文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) : 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されます。 • カンマ (,) : 数字の間に一時停止を挿入します。 • ピリオド (.) : 入力された任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。 • パーセント記号 (%) : 直前の数字が 0 回以上発生したことを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 • プラス記号 (+) : 直前の数字が 1 回以上出現したことを示します。 <p>(注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示す、数字列の前に使用できるプラス記号とは異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曲折アクセント (^) : 文字列の先頭に一致することを示します。 • ドル記号 (\$) : 入力文字列の末尾の null 文字列に一致します。 • バックスラッシュ記号 (\) : この記号の後に単一の文字が続き、その文字に一致します。他の意味を持たない単一の文字で使用できます (その文字と一致します)。 • 疑問符 (?) : 前の数字が 0 回または 1 回出現したことを示します。 • ブラケット ([]) : 範囲を示します。範囲は、ブラケットで囲まれた一連の文字です。範囲には 0～9 の数字のみを使用できます。 • 括弧 (()) : パターンを示します。正規表現ルールと同じです。
T	<p>(オプション) destination-pattern 値が可変長のダイヤル文字列であることを示す制御文字。この制御文字を使用すると、ルータでは、すべての桁を受信するまで待機してからコールをルーティングできます。</p>

コマンドデフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、着信中の発信番号5550125に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming calling-number 5550125
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルター一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
incoming called-number (call filter match list)	着信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming dialpeer	着信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
incoming secondary-called-number	2 ステージシナリオの第2 ステージからの着信番号のデバッグフィルタ処理を設定します。
outgoing called-number	発信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing calling-number	発信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing dialpeer	発信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming dialpeer

着信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルター一致リストコンフィギュレーションモードで **incoming dialpeer** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

incoming dialpeer tag
no incoming dialpeer tag

構文の説明

<i>tag</i>	特定のダイヤルピアを定義する数字。有効なエントリは1～2,147,483,647です。
------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、着信ダイヤルピア 12 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming dialpeer 12
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルター一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
incoming called-number (call filter match list)	着信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming calling-number	着信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming port	着信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
incoming secondary-called-number	2 ステージシナリオの第 2 ステージからの着信番号のデバッグフィルタ処理を設定します。

コマンド	説明
outgoing called-number	発信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing calling-number	発信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing dialpeer	発信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing port	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming media local ipv4

メディアストリームを受信する音声ゲートウェイの着信メディアローカル IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタ一致リスト コンフィギュレーション モードで `incoming media local ipv4` コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`incoming media local ipv4 ip_address`
`no incoming media local ipv4 ip_address`

構文の説明

<code>ip_address</code>	ローカル音声ゲートウェイの IP アドレス
-------------------------	-----------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コールフィルタ一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、IP アドレスが 192.168.10.255 であるローカル音声ゲートウェイの着信メディアに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタの設定を示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming media local ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>call filter match-list voice</code>	音声コールをデバッグするコールフィルタ一致リストを作成します。
<code>debug condition match-list</code>	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
<code>incoming media remote ipv4</code>	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>incoming port</code>	着信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing media local ipv4</code>	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing media remote ipv4</code>	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。

コマンド	説明
outgoing port	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming media remote ipv4

メディアストリームを受信する音声ゲートウェイの着信メディアリモート IPv4 アドレスのデバッグフィルタ処理を設定するには、コールフィルタ一致リストコンフィギュレーションモードで `incoming media remote ipv4` コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

incoming media remote ipv4 ip_address
no incoming media remote ipv4 ip_address

構文の説明

<code>ip_address</code>	リモート IP デバイスの IP アドレス。
-------------------------	------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コールフィルタ一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、IP アドレスが 192.168.10.255 のリモート IP デバイスの着信メディアに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  incoming media remote ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルタ一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
incoming media local ipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
incoming port	着信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing media local ipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing media remote ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。

コマンド	説明
outgoing port	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming port

着信ポートのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション モードで **incoming port** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ

```
incoming port {slot-number subunit-number /port|slot/port/ds0-group- no}
```

```
no incoming port {slot-number subunit-number /port|slot/port/ds0-group- no}
```

高密度アナログネットワーク モジュール (NM-HDA) を搭載した Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズ

```
incoming port slot-number subunit-number /port
```

```
no incoming port slot-number subunit-number /port
```

Cisco AS5300

```
incoming port controller-number D
```

```
no incoming port controller-number :D
```

Cisco AS5400

```
incoming port card port :D
```

```
no incoming port card port :D
```

Cisco AS5800

```
incoming port {shelf /slot /port :D|shelf /slot /parent /port :D}
```

```
no incoming port {shelf /slot /port :D|shelf /slot /parent /port :D}
```

Cisco MC3810

```
incoming port slot /port
```

```
no incoming port slot /port
```

構文の説明

<i>slot-number</i>	VIC が取り付けられているルータのスロット番号。有効なエントリは 0 ～ 3 で、取り付けられているスロットによって異なります。
<i>subunit-number</i>	音声ポートが配置されている VIC のサブユニット。有効なエントリは 0 または 1 です。
<i>port</i>	音声ポート番号。有効なエントリは 0 および 1 です。
<i>slot</i>	音声ポートアダプタが取り付けられているルータの位置。有効なエントリは 0 ～ 3 です。
<i>port:</i>	音声インターフェイスカードの位置を示します。有効なエントリは 0 および 3 です。
<i>ds0-group-no</i>	定義された DS0 グループ番号を示します。定義済みの DS0 グループ番号はそれぞれの音声ポート上に表示されています。これによって、デジタル T1/E1 カード上で個々の DS0 を定義できます。

<i>controller-number</i>	T1 または E1 コントローラ。
:D	ISDN PRI に関連付けられた D チャネル。

<i>card</i>	T1 または E1 カードを指定します。 <i>card</i> 引数の有効なエントリは 1 ~ 7 です。
<i>port</i>	音声ポート番号を指定します。指定できるエントリは 0 ~ 7 です。
:D	ISDN PRI に関連付けられた D チャネルを示します。

<i>shelf</i>	T1 カードの T1 または E1 コントローラ、または T3 カードの T1 コントローラを指定します。 <i>shelf</i> 引数の有効なエントリは 0 ~ 9999 です。
<i>slot</i>	T1 カードの T1 または E1 コントローラ、または T3 カードの T1 コントローラを指定します。 <i>slot</i> 引数の有効なエントリは 0 ~ 11 です。
<i>port</i>	音声ポート番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • T1 カードの T1 または E1 コントローラ -- 有効なエントリは 0 ~ 11 です。 • T3 カードの T1 コントローラ -- 有効なエントリは 1 ~ 28 です。
:port	<i>parent</i> 引数の値を指定します。有効なエントリは 0 です。
:D	ISDN PRI に関連付けられた D チャネルを示します。

<i>slot</i>	<i>slot</i> 引数には VIC が取り付けられているルータのスロット番号を指定します。有効なエントリは 1 のみです。
<i>port</i>	The <i>port</i> 変数には音声ポート番号を指定します。有効なインターフェイスの範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • T1--ANSI T1.403 (1989) 、Telcordia TR-54016。 • E1--ITU G.703。 • アナログ音声 -- 最大 6 つのポート (FXS、FXO、E & M) 。 • デジタル音声 -- クロスコネクト ドロップアンドインサート、CAS および CCS シグナリング、PRI QSIG を備えた単一の T1/E1。 • イーサネット -- 単一の 10BASE-T。 • シリアル -- 2 つの 5-in-1 同期シリアル (ANSI EIA/TA-530、EIA/TA-232、EIA/TA-449、ITU-T V.35、X.21、Bisync、ポーリング非同期) 。

コマンドデフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、Cisco 3660 音声ゲートウェイの着信ポート 1/1/1 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming port 1/1/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルタ一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
outgoing port	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルタ一致リストを表示します。

incoming secondary-called-number

2 ステージシナリオの第2 ステージからの着信番号のデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタ致リスト コンフィギュレーションモードで `incoming secondary-called-number` コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`incoming secondary-called-number string`
`no incoming secondary-called-number string`

構文の説明

<i>string</i>	<p>E.164の電話番号またはプライベートダイヤルプランの電話番号パターンを指定する一連の数字。有効なエントリは、0～9の数字、A～Dの文字、および次の特殊文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) : 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されます。Cisco 3600 シリーズルータのみで、これらの文字を文字列の先頭文字として使用することはできません (たとえば、*650)。 • カンマ (,) : 数字の間に一時停止を挿入します。 • ピリオド (.) : 入力された任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。Cisco 3600 シリーズルータでは、ピリオドを文字列の先頭文字として使用することはできません (たとえば、.650)。 • パーセント記号 (%) : 直前の数字が0回以上発生したことを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 • プラス記号 (+) : 直前の数字が1回以上出現したことを示します。 <p>(注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示す、数字列の前に使用できるプラス記号とは異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曲折アクセント (^) : 文字列の先頭に一致することを示します。 • ドル記号 (\$) : 入力文字列の末尾の null 文字列に一致します。 • バックスラッシュ記号 (\) : この記号の後に単一の文字が続き、その文字に一致します。他の意味を持たない単一の文字で使用できます (その文字と一致します)。 • 疑問符 (?) : 前の数字が0回または1回出現したことを示します。 • ブラケット ([]) : 範囲を示します。範囲は、ブラケットで囲まれた一連の文字です。範囲には0～9の数字のみを使用できます。 • 括弧 (()) : パターンを示します。正規表現ルールと同じです。
---------------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 2 ステージイヤリングは、音声ゲートウェイが数字を受け入れる前にダイヤルトーンを提示する場合に発生します。音声コールが Cisco IOS 音声ゲートウェイに到達すると、ルータの音声ポートは、PBX または CO スイッチによってインバウンド用に捕捉されます。続いて、音声ゲートウェイは発信者に対してダイヤルトーンを返し、アウトバウンドダイヤルピアを特定できるまで桁を収集します。ダイヤルピアの照合は、人間が不規則な間隔でダイヤルしても、電話機が事前に収集した桁を一定間隔でダイヤルしても、1 桁ずつ行われます。音声ゲートウェイでは、各桁を受信するたびにダイヤルピアの照合を試行します。

例

次の例では、着信中のセカンダリ着信番号 5550156 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  incoming secondary-called-number 5550156
```

関連コマンド

コマンド	説明
call filter match-list voice	音声コールをデバッグするコールフィルター一致リストを作成します。
debug condition match-list	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
incoming called-number (call filter match list)	着信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming calling-number	着信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
incoming dialpeer	着信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing called-number	発信中の着信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing calling-number	発信中の発信番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoing dialpeer	発信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定します。

コマンド	説明
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming signaling local ipv4

シグナリングを管理するゲートキーパーの着信シグナリングローカル IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション モードで `incoming signalling local ipv4` コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`incoming signaling local ipv4 ip_address`
`no incoming signaling local ipv4 ip_address`

構文の説明

<code>ip_address</code>	ローカル音声ゲートウェイの IP アドレス
-------------------------	-----------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コールフィルター一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、IP アドレスが 192.168.10.255 であるローカル音声ゲートウェイの着信シグナリングに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタの設定を示しています。

```
call filter match-list 1 voice
incoming signaling local ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>call filter match-list voice</code>	音声コールをデバッグするコールフィルター一致リストを作成します。
<code>debug condition match-list</code>	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
<code>incoming port</code>	着信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>incoming signaling remote ipv4</code>	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing port</code>	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing signaling local ipv4</code>	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。

コマンド	説明
outgoing signaling remote ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming signaling remote ipv4

シグナリングを管理するゲートキーパーの着信シグナリングリモート IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタ一致リスト コンフィギュレーション モードで `incoming signalling remote ipv4` コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`incoming signaling remote ipv4 ip_address`
`no incoming signaling remote ipv4 ip_address`

構文の説明

<code>ip_address</code>	リモート IP デバイスの IP アドレス。
-------------------------	------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コールフィルタ一致リスト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、IP アドレスが 192.168.10.255 のリモート IP デバイスの着信シグナリングに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  incoming signaling remote ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>call filter match-list voice</code>	音声コールをデバッグするコールフィルタ一致リストを作成します。
<code>debug condition match-list</code>	音声コールでフィルタリングされたデバッグを実行します。
<code>incoming port</code>	着信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>incoming signaling local ipv4</code>	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing port</code>	発信ポートのデバッグフィルタリングを設定します。
<code>outgoing signaling local ipv4</code>	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。

コマンド	説明
outgoing signaling remote ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定します。
show call filter match-list	コールフィルター一致リストを表示します。

incoming uri

VoIP ダイアルピアを着信コールの Uniform Resource Identifier (URI) と照合するために使用される音声クラスを指定するには、ダイアルピア音声コンフィギュレーションモードで **incoming uri** コマンドを使用します。ダイアルピアから URI 音声クラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

H.323 セッションプロトコル

incoming uri {called | calling} tag

no incoming uri {called | calling}

Session Initiation Protocol (SIP) セッションプロトコル

incoming uri {from | request | to | via} tag

no incoming uri {from | request | to | via}

構文の説明

called	H.323 コールの H.225 メッセージの接続先 URI。
calling	H.323 コールの H.225 メッセージの送信元 URI。
tag	音声クラスを一意に識別する英数字ラベル。この tag 引数は、 voice class uri コマンドで設定する必要があります。
from	着信 SIP Invite メッセージの送信元 (From) ヘッダー。
request	着信 SIP Invite メッセージの Request-URI。
to	着信 SIP Invite メッセージのヘッダーの宛先。
via	着信 SIP Invite メッセージのヘッダーの経由先。

コマンド デフォルト

音声クラスは指定されていません。

コマンド モード

ダイアルピア音声コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。
15.1(2)T	このコマンドが変更されました。 via キーワードが含まれていました。

使用上のガイドライン

- このコマンドを使用する前に、 **voiceclassuri** コマンドを使用して音声クラスを設定してください。
- このキーワードは、 **session protocol sipv2** コマンドでダイアルピアが SIP 用に設定されているかどうかによって異なります。 **from**、**request**、**to**、**via** キーワードは、SIP ダイアルピアでのみ使用できます。 **called** および **calling** キーワードは、H.323 を使用するダイアルピアでのみ使用できます。

- このコマンドは、ダイヤルピア マッチングルールを適用します。次の表は、**incoming uri** コマンドの使用時に適用される規則と順序を示しています。ゲートウェイでは、ダイヤルピアへのインバウンドコールを照合するために、**dial-peer** コマンドを **call** パラメータと検索で比較します。すべてのダイヤルピアは、最初の照合基準に基づいて検索されます。ゲートウェイでは、一致が見つからない場合にのみ、次の基準に進みます。

表 1: SIP コールのインバウンド URI のダイヤルピア マッチングルール

照合順序	Cisco IOS コマンド	着信コールパラメータ
1	incoming uri via	URI 経由
2	incoming uri request	Request-URI
3	incoming uri to	URI へ
4	incoming uri from	URI から
5	incoming called-number	着信者番号
6	answer-address	発信者番号
7	destination-pattern	発信者番号
8	carrier-id source	通話に関連付けられたキャリア ID

表 2: H.323 コールのインバウンド URI のダイヤルピア マッチングルール

照合順序	Cisco IOS コマンド	着信コールパラメータ
1	incoming uri called	H.225 メッセージの接続先 URI
2	incoming uri calling	H.225 メッセージの送信元 URI
3	incoming called-number	着信者番号
4	answer-address	発信者番号
5	destination-pattern	発信者番号
6	carrier-id source	コールに関連付けられた送信元キャリア ID



(注) URI ではなく E.164 番号を使用するコールは、Cisco IOS リリース 15.1(2)T より前に存在していたダイヤルピア マッチングルールを使用します。詳細については、『Cisco IOS 音声コンフィギュレーション ライブラリ』にあるドキュメントの「音声ゲートウェイルータでのダイヤルピア構成 (Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers)」を参照してください。

- このコマンドは、同じダイヤルピアで異なるキーワードを使用して複数回使用できます。たとえば、を同じダイヤルピアで **incoming uri called** および **incoming uri calling** を使用できます。次に、ゲートウェイでは上記の表で説明されている一致ルールに基づいてダイヤルピアを選択します。

例

次の例では、ab100 音声クラスを使用して、着信 H.323 コールの接続先の電話 URI を照合します。

```
dial-peer voice 100 voip
  incoming uri called ab100
```

次の例では、ab100 音声クラスを使用して、SIP コールの URI を介して着信を照合します。

```
dial-peer voice 100 voip
  session protocol sipv2
  incoming uri via ab100
```

関連コマンド

コマンド	説明
answer-address	ダイヤルピアと照合する発信者番号を指定します。
debug voice uri	URI 音声クラスに関連する Debug (デバッグ) メッセージ表示します。
destination-pattern	ダイヤルピアと照合する電話番号を指定します。
dial-peer voice	ダイヤルピア音声コンフィギュレーションモードを開始して、ダイヤルピアを作成または変更します。
incoming called-number	ダイヤルピアに一致する着信中の着信番号を指定します。
session protocol	ローカルルータとリモートルータ間のコールのダイヤルピアでセッションプロトコルを指定します。
show dialplan incall uri	着信音声コールの特定の URI に一致するダイヤルピアを表示します。
voice class uri	SIP または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを一致させるための音声クラスを作成または変更します。

index (voice class)

音声クラス着信番号、または音声クラス着信番号プールの番号の範囲を定義するには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **index** コマンドを使用します。番号または番号の範囲を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

index number called-number

no index number called-number

構文の説明	<i>number</i>	このインデックスを識別する数字。範囲は1～2147483647です。
	<i>called-number</i>	着信番号または着信番号の範囲を E.164 形式で指定します。

コマンド デフォルト インデックスは設定されていません。

コマンド モード 音声クラス コンフィギュレーション (config-voice-class)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、音声クラス着信番号、または音声クラス着信プール番号の範囲を定義します。インバウンドまたはアウトバウンドの音声クラス着信番号または音声クラス着信番号プールに複数のインデックスを定義できます。

着信番号プールの番号の範囲を定義する場合：

- 番号の範囲は E.164 形式にする必要があります。
- 開始番号と終了番号は同じ長さでなければなりません。
- 各数字の最後の桁は 0～9 である必要があります。
- 先頭の「+」（使用する場合は、着信番号の範囲内から定義する必要があります）。

例

次の例では、音声クラス **called number pool 100** にインデックスを設定しています。

```
voice class called number pool 100
  index 1 4085550100 - 4085550111 (Range of called numbers are 4085550100 up to 4085550111)

  index 2 +3227045000
```

次の例では、音声クラス **called number outbound 222** にインデックスを設定しています。

```
voice class called number outbound 222
  index 1 4085550101
```

```
index 2 4085550102  
index 2 4085550103
```

関連コマンド

コマンド	説明
voice class called number	音声クラスに設定された着信番号。

info-digits

特定の POTS ダイアルピアに関連付けられたダイヤル番号文字列の先頭に 2 桁のプレフィックスを自動的に追加するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **info-digits** コマンドを使用します。2 桁のプレフィックスを「00」に指定するには、このコマンドのデフォルトの **info-digits** 形式を使用します。ルータによって POTS ダイアルピアの先頭に 2 桁のプレフィックスを自動的に追加しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

info-digits *prefix-number*

default info-digits

no info-digits

構文の説明

prefix-number	<p>コールを発信する電話機のタイプを識別するために、ルータによって特定の POTS ダイアルピアのダイヤル番号文字列に自動的に追加する 2 桁のプレフィックスを指定します。この値は、2 桁の数字以外を含めることはできません。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 00--通常回線 • 01--参加者数 4 および 参加者数 8 • 06--ホテルまたはモーテル • 07--コインなし • 10 --テストコール • 27--コイン • 95--テストコール <p>(注) 12 ~ 19 の値は、電話番号リストを送信する国際的な 20 Automatic Identification of Outward と競合するため、割り当てることができません。</p>
----------------------	---

コマンド デフォルト

ダイヤルされた番号の文字列には 00 が追加されます。これはダイヤルされた番号の文字列が通常回線からのものであることを示します。

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(1)T	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが変更されました。ダイヤルされた番号文字列を 00 で追加するようにデフォルトの動作が変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、発信コールを動的にリダイレクトできるように、POTS ダイアルピアのダイヤル番号文字列に2桁のプレフィックスを追加します。info-digits コマンドは、米国内の緊急911 コールなどの特定のコールサービスを提供する機能グループ D (FGD) Exchange Access North American (EANA) シグナリングに対応する音声ポートに関連付けられた POTS ダイアルピアでのみ使用できます。他の音声ポートタイプに **info-digit** コマンドを設定することは推奨しません。問題が生じる可能性があります。

例

次の例では、POTS ダイアルピア 10 のダイヤル番号文字列の先頭に情報番号文字列 91 を追加しています。

```
dial-peer voice 10 pots
  info-digits 91
```

information-type

Voice over IP (VoIP) または単純な旧式の電話サービス (POTS) ダイアルピアの特定の情報タイプを選択するには、ダイアルピア コンフィギュレーション モードで **informationtype** コマンドを使用します。現在の情報タイプの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

information-type {**fax** | **voice** | **video**}
no information-type

構文の説明

fax	情報タイプはストアアンドフォワードFAXに設定されています。
voice	情報タイプは音声に設定されています。これはデフォルトです。
video	情報タイプはビデオに設定されています。

コマンド デフォルト

Voice

コマンド モード

ダイアル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.0(4)XJ	このコマンドは、ストアアンドフォワード FAX 用に変更されました。
12.0(4)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.0(4)T に統合されました。
12.1(1)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。
12.1(5)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745 のプラットフォームに導入されました。
12.4(11)T	video キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

fax キーワードは、オンランプとオフランプの両方のストアアンドフォワード FAX 機能に適用されます。

例

次の例では、VoIP ダイアルピア 10 の情報タイプ (FAX) の設定を示しています。

```
dial-peer voice 10 voip
  information-type fax
```

次の例では、POTS ダイアルピア 22 の情報タイプ（ビデオ）の設定を示しています。

```
dial-peer voice 22 pots
  information-type video
```

関連コマンド

コマンド	説明
isdn integrate calltype all	ISDN BRI または PRI インターフェイスで統合モード（データ、音声、ビデオ用）を有効化します。

inject guard-tone

音声パケットでガードトーンを再生するには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **inject guard-tone** コマンドを使用します。ガードトーンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inject guard-tone *frequency amplitude* [**idle**]
no inject guard-tone *frequency amplitude* [**idle**]

構文の説明

<i>frequency</i>	挿入されるトーンの周波数 (Hz)。範囲は 1 ~ 4,000 の整数です。
<i>amplitude</i>	挿入されるトーンの振幅 (dBm 単位)。範囲は -50 ~ -3 の整数です。
idle	(オプション) 音声パケットがない場合、ガードトーンの逆を再生します。アイドル トーンとガード トーンは互いに排他的です。

コマンド デフォルト

ガードトーンは挿入しません。

コマンド モード

音声クラス コンフィギュレーション (config-voice-class)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

inject guard-tone コマンドは、Ear and Mouth (E&M) アナログまたはデジタル音声ポートの信号タイプが陸上移動無線 (LMR) である場合に限り効果があります。無線チャンネルを維持するために、音声パケットとともにガードトーンが再生されます。**digital-filter** コマンドを使用して、音声パケットがデジタルシグナルプロセッサ (DSP) からネットワークに送信される前に、1,950 Hz および 2,175 Hz のガードトーンをフィルタ処理で取り除くことができます。

例

次の例では、1,950 Hz および -10 dBm のガードトーンが音声パケットで再生されるように設定しています。

```
voice class tone-signal tone1
  inject guard-tone 2175 -30
```

関連コマンド

コマンド	説明
digital-filter	音声パケットが DSP からネットワークに送信される前に使用されるデジタルフィルタを指定します。

inject pause

挿入されたトーン間の一時停止を指定するには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **inject pause** コマンドを使用します。一時停止を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inject pause *index milliseconds*
no inject pause *index milliseconds*

構文の説明		
	<i>index</i>	ポーズとトーンの順序。範囲は 1 ~ 10 の整数です。
	<i>milliseconds</i>	挿入されたトーン間の一時停止の継続時間（ミリ秒）。範囲は 10 ~ 500 の整数です。

コマンド デフォルト *milliseconds* : 0 ミリ秒

コマンド モード 音声クラス コンフィギュレーション (config-voice-class)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン **inject pause** コマンドは、Ear and Mouth (E&M) 音声ポートの信号タイプが陸上移動無線 (LMR) である場合に限り有効です。このコマンドを使用して、**inject tone** コマンドで指定された挿入されたトーン間の一時停止を指定します。ポーズとトーンの順序を指定するには、このコマンドの *index* 引数を **injecttone** コマンドの *index* 引数と組み合わせて使用します。

例

次の例では、トーンが挿入された後に 100 ミリ秒の一時停止を設定しています。

```
voice class tone-signal 100
  inject tone 1 2000 0 200
  inject pause 2 100
```

関連コマンド	コマンド	説明
	inject tone	音声パケットの前に再生するウェイクアップトーンまたは周波数選択トーンを指定します。

inject tone

音声パケットの前に再生するウェイクアップトーンまたは周波数選択トーンを指定するには、音声クラス コンフィギュレーション モードで **inject tone** コマンドを使用します。トーンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

inject tone *index frequency amplitude duration*
no inject tone *index frequency amplitude duration*

構文の説明

<i>index</i>	ポーズとトーンの順序。範囲は 1 ~ 10 の整数です。
<i>frequency</i>	挿入されるトーンの周波数 (Hz)。範囲は 1 ~ 4,000 の整数です。
<i>amplitude</i>	挿入されるトーンの振幅 (dBm 単位)。範囲は -30 ~ 3 の整数です。
<i>duration</i>	挿入されるトーンの継続時間 (ミリ秒)。範囲は 10 ~ 500 の整数です。

コマンド デフォルト

トーンは挿入されません。

コマンド モード

音声クラス コンフィギュレーション (config-voice-class)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

inject tone コマンドは、Ear and Mouth (E&M) 音声ポートの信号タイプが陸上移動無線 (LMR) である場合に限り有効です。このコマンドを **inject pause** コマンドとともに使用して、ウェイクアップトーンと周波数選択トーンを設定します。このコマンドの *index* 引数を **inject pause** コマンドの *index* 引数と組み合わせて使用して、ポーズとトーンの順序を指定します。

このコマンドで挿入されたトーンを設定する場合は、必ず **timing delay-voice tdm** コマンドを使用して、音声パケットが再生されるまでの遅延を設定するようにします。遅延は、トーン信号の音声クラスにおいて、挿入されたトーンと停止の期間の合計と等しくなるようにします。

例

次の例では、音声パケットの前に再生される周波数選択トーンを設定しています。

```
voice class tone-signal 100
  inject tone 1 1950 3 150
  inject tone 2 2000 0 60
  inject pause 3 60
  inject tone 4 2175 3 150
  inject tone 5 1000 0 50
```

関連コマンド

コマンド	説明
inject pause	挿入されたトーン間の一時停止を指定します。
timing delay-voice tdm	音声パケットが再生されるまでの遅延を指定します。

input gain

特定の入力ゲイン値を設定するか、オートゲインコントロール（AGC）を有効化するには、音声ポート コンフィギュレーション モードで **input gain** コマンドを使用します。挿入されたゲインの値を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

input gain {*decibels* | **auto-control** [*auto-dBm*]}

no input gain {*decibels* | **auto-control** [*auto-dBm*]}

構文の説明

<i>decibels</i>	インターフェイスの受信側で挿入されるゲインの量を、デシベル単位（dB）で指定します。範囲は -6 ～ 14 の整数です。デフォルトは 0 です。
auto-control	オートゲインコントロール（AGC）を有効化します。
<i>auto-dBm</i>	（オプション）インターフェイスの受信側で達成すべき目標音声レベル（dBm 単位（ミリワットあたりのデシベル））。範囲は -30 ～ 3 の整数です。デフォルトは -9 dBm です。

コマンド デフォルト

オートゲインコントロール（AGC）は無効化されています。

コマンド モード

音声ポート コンフィギュレーション（config-voiceport）

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが導入されました。
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.3(4)XD	このコマンドが変更されました。 <i>decibels</i> 引数の値の範囲が拡大されました。
12.3(7)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。
12.3(14)T	このコマンドが Cisco 2800 および Cisco 3800 シリーズ に導入されました。
12.4(2)T	このコマンドが変更されました。 auto-control キーワードと <i>auto-dBm</i> 引数が追加されました。

使用上のガイドライン

input gain コマンドと **output attenuation** コマンドの両方を使用して、システム全体の損失計画を導入する必要があります。損失計画を作成する場合は、システム内の他のデバイス（PBX など）を考慮する必要があります。**input gain** コマンドのデフォルト値は、標準の伝送損失計画が有効であることを前提としています。特にエコーキャンセラが存在する場合は、通常、電話間で最小減衰が -6 dB あります。**input gain** コマンドおよび **output attenuation** コマンドがデフォルト値の 0 dB で設定されている場合、接続では 0 dB の減衰となるように導入されています。

公衆電話交換網（PSTN）に対する信号ゲインを上げることはできませんが、下げることはできます。音声レベルが高すぎる場合は、入力ゲインを下げるか、出力減衰を大きくして音量を下げるすることができます。

デバイスに入る信号ゲインを上げることができます。音声レベルが低すぎる場合は、**input gain** コマンドを使用して入力ゲインを上げます。

一般的な陸上移動無線（LMR）信号システムでは 0 dB で送信し、-10 dB で受信すると想定しています。出力減衰を 10 dB に設定するのが一般的です。出力減衰は、無線機が送信時に正常な変調を行うために必要な音声レベルを入力できるように調整する必要があります。

auto-control キーワードと *auto-dBm* 引数は、そのポートの信号タイプが LMR である場合にのみ、ear and mouth（E&M）音声ポートで使用できます。**auto-control** キーワードによって、デジタルシグナルプロセッサ（DSP）によって実行されるオートゲインコントロール（AGC）を有効化します。オートゲインコントロール（AGC）によって、話し声が大きすぎる、または小さすぎる場合に、快適な音量に調整します。無線ネットワークの損失やその他の環境要因により、LMR システムからデバイスに到達する音声レベルが非常に低くなる可能性があります。オートゲインコントロール（AGC）を使用すると、より快適なレベルで音声を再生できるようにします。ゲインはデジタルで挿入されるため、背景雑音も増幅される可能性があります。オートゲインコントロール（AGC）は次のような内容で導入されます。

- 出力レベル --- 9 dB
- ゲイン範囲 -- -12 dB ~ 20 dB
- アタックタイム（低から高）-- 30 ミリ秒
- アタックタイム（高から低）-- 8 秒

例

次の例では、Cisco 3600 シリーズルータのインターフェイスの受信側で 3 dB のゲインを挿入する方法を示しています。

```
port 1/0/0
input gain 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
output attenuation	特定の出力減衰値を設定するか、音声ポートのオートゲインコントロール（AGC）を有効にします。

intensity

ノイズリダクション処理の強度や深度を設定するには、メディアプロファイル コンフィギュレーション モードで **intensity** コマンドを使用します。この設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

intensity level

no intensity レベル

構文の説明

<i>level</i>	強度レベル。範囲は 0～6 です。
--------------	-------------------

コマンド デフォルト

ノイズリダクションの強度は設定されていません。

コマンド モード

メディアプロファイル コンフィギュレーション モード (cfg-mediaprofile)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。
15.2(3)T	このコマンドが変更されました。Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

intensity コマンドを使用して、ノイズリダクション処理の強度や深度を設定します。ノイズリダクション用のメディアプロファイルを作成してから、強度レベルを設定する必要があります。

例

次の例では、ノイズリダクションパラメータに設定するために、メディアプロファイルを作成する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# media profile nr 200
Device(cfg-mediaprofile)# intensity 2
Device(cfg-mediaprofile)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
media profile nr	メディアプロファイルを作成して、ノイズリダクションパラメータを設定します。
noisefloor	NR が動作するノイズレベルを dBm 単位で設定します。

interface (RLM server)

Redundant Link Manager (RLM) サーバーの IP アドレスを定義するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **interface** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface *name-tag*
no interface *name-tag*

構文の説明

<i>name-tag</i>	サーバー構成の複数のエントリを入力できるように、サーバー構成を識別するための名前。
-----------------	---

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(7)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

各サーバーでは、IP アドレスまたはエイリアスの複数のエントリを持つことができます。

例

次の例では、RLMサーバー「Loopback1」および「Loopback2」のアクセスサーバーインターフェイスを設定しています。

```
interface Loopback1
 ip address 10.1.1.1 255.255.255.255
 interface Loopback2
 ip address 10.1.1.2 255.255.255.255
 rlm group 1
 server r1-server
 link address 10.1.4.1 source Loopback1 weight 4
 link address 10.1.4.2 source Loopback2 weight 3
```

関連コマンド

Command	Description
clear interface	インターフェイスのハードウェア ロジックをリセットします。
clear rlm group	すべての RLM グループタイムスタンプをゼロにクリアします。
link (RLM)	リンク設定を指定します。
protocol rlm port	rlm-group 全体の基本 RLM 接続のポート番号を再構成します。
retry keepalive	リンクダウンが宣言されるまでの一定時間、連続したキープアラートの失敗を許可します。

Command	Description
server (RLM)	サーバーの IP アドレスを定義します。
show rlm group statistics	RLM グループのネットワーク遅延を表示します。
show rlm group status	RLM グループの状態を表示します。
show rlm group timer	RLM グループのタイマー値を表示します。
shutdown (RLM)	RLM グループの下のすべてのリンクをシャットダウンします。
timer	タイムアウト値のデフォルト設定を上書きします。

interface Dchannel

ISDN D チャネルインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **interface Dchannel** コマンドを使用します。

interface Dchannel *interface-number*

構文の説明	<p><i>interface -number</i></p> <p>ISDN インターフェイス番号を指定します。</p> <p>(注) <i>interface-number</i> 引数は、コンフィギュレーション コマンド pri-group timeslots の rlm-group サブキーワードがどのコントローラを使用するかによって異なります。たとえば、冗長リンクマネージャ (RLM) グループが controller e1 2/3 コマンドを使用して構成されている場合、D チャネルインターフェイス コマンドは interface Dchannel 2/3 になります。</p>
-------	---

コマンド デフォルト D チャネルインターフェイスは指定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(8)B	このコマンドが導入されました。
	12.2(15)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(15)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、RLM 設定用の ISDN PRI シグナリングタイムスロットを解放する必要がある Voice over IP (VoIP) アプリケーションで特に使用されます。

例 次の例では、Signaling System 7 (SS7) 対応の共有 T1 リンクの D チャネルインターフェイスを設定しています。

```

controller T1 1
  pri-group timeslots 1-3 nfas_d primary nfas_int 0 nfas_group 0 rlm-group 0
  channel group 23 timeslot 24
end
! D-channel interface is created for configuration of ISDN parameters:
interface Dchannel1
  isdn T309 4000
end

```


関連コマンド

コマンド	説明
pri-group timeslots	チャネライズド T1 または E1 コントローラで ISDN PRI グループを指定し、SS7 対応の VoIP アプリケーションが PRI グループ内のすべてのスロットを共有する必要がある環境に対して、ISDN PRI シグナリングタイムスロットを解放します。

interface event-log dump ftp

ゲートウェイがインターフェイスイベントログバッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにするには、アプリケーションコンフィギュレーション モニタ モードで **interface event-log dump ftp** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface event-log dump ftp server [[:port]/]file username username
password {[encryption-type]}password
no interface event-log dump ftp server [[:port]/]file username username
password {[encryption-type]}password
```

構文の説明

<i>server</i>	ファイルが配置されているサーバーの名前または IP アドレス。
<i>port</i>	(オプション) サーバーのポート番号を指定します。
<i>file</i>	ファイルの名前とパス。
<i>username</i>	ファイルへのアクセスに必要なユーザー名。
<i>encryption-type</i>	(オプション) パスワードの暗号化に使用するシスコ独自のアルゴリズム。値は 0 または 7 です。暗号化を無効化するには 0 を、有効化するには 7 を入力します。7 を指定する場合は、暗号化されたパスワード (Cisco ルータによってすでに暗号化されているパスワード) を入力する必要があります。
<i>password</i>	ファイルにアクセスするために必要なパスワード。

コマンド デフォルト

インターフェイス イベントログバッファは外部ファイルに書き込まれません。

コマンド モード

アプリケーション コンフィギュレーション モニタ

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(14)T	call application interface event-log dump ftp コマンドを置き換える目的でこのコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、バッファが満杯になったときに、ゲートウェイが指定したファイルにインターフェイスイベントログバッファを自動的に書き込むことができます。デフォルトのバッファ サイズは 4 KB です。バッファのサイズを変更するには、**interface event-log max-buffer-size** コマンドを使用します。イベントログバッファを手動でフラッシュするには、特権 EXEC モードで **interface dump event-log** コマンドを使用します。



(注) イベントログを FTP に書き込むようにゲートウェイを有効化すると、次のようなシナリオで、ゲートウェイのメモリリソースに悪影響を与える場合があります。

- ゲートウェイがプロセッサリソースを大量に消費しており、FTPにはログバッファをFTPサーバーにフラッシュするためのプロセッサリソースが不足している。
- 指定されたFTPサーバーには、FTP転送を高速に実行するために十分な性能がない
- ゲートウェイとFTPサーバー間のリンクの帯域幅が十分ではない
- ゲートウェイで短時間のコールまたは失敗したコールを大量に受信している

FTPダンプは、必要な場合にのみ有効化する必要があり、システムパフォーマンスに悪影響を与える可能性のある状況では有効化しないでください。

例

次の例では、インターフェイスイベントログを、ftp-serverというサーバーのint_elsogs.logという外部ファイルに書き込むように指定しています。

```
application
monitor
interface event-log dump ftp ftp-server/elogs/int_elsogs.log username myname password 0
mypass
```

次の例では、アプリケーションイベントログを、IPアドレス10.10.10.101のサーバーのint_elsogs.logという外部ファイルに書き込むように指定しています。

```
application
monitor
interface event-log dump ftp 10.10.10.101/elogs/int_elsogs.log username myname password 0
mypass
```

関連コマンド

コマンド	説明
call application interface event-log dump ftp	ゲートウェイがインターフェイスイベントログバッファの内容を外部ファイルに書き込むことができますようにします。
interface dump event-log	外部ファイルへのアプリケーションインターフェイスのイベントログバッファをフラッシュします。
interface event-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベントロギングを有効化します。
interface event-log max-buffer-size	各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
interface max-server-records	保存されるアプリケーションインターフェイスレコードの最大数を設定します。
show call application interface	アプリケーションインターフェイスのイベントログと統計を表示します。

interface event-log error only

イベントロギングをアプリケーションインターフェイスのエラーイベントのみに制限するには、アプリケーション コンフィギュレーション モニタモードで **interface event-log error-only** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface event-log error-only
no interface event-log error-only

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

すべてのイベントがログに記録されます。

コマンド モード

アプリケーション コンフィギュレーション モニタ

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(14)T	call application interface event-log error only コマンドを置き換える目的でこのコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドでは、記録されるイベントの重大度レベルを制限します。ロギングは有効化しません。このコマンドは、すべてのアプリケーションインターフェイスのイベントロギングを有効化する **interface event-log** コマンドとともに使用する必要があります。

例

次の例では、エラーイベントのみのイベントロギングを有効化しています。

```
application
monitor
interface event-log error-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
call application interface event-log error-only	イベントロギングをアプリケーションインターフェイスのエラーイベントのみに制限します。
interface event-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベントロギングを有効化します。
interface event-log max-buffer-size	各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
interface max-server-records	保存されるアプリケーションインターフェイス レコードの最大数を設定します。

コマンド	説明
show call application interface	アプリケーションインターフェイスのイベントログと統計を表示します。

interface event-log max-buffer-size

各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定するには、アプリケーション コンフィギュレーション モニタモードで **interface event-log max-buffer-size** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface event-log max-buffer-size kbytes
no interface event-log max-buffer-size
```

構文の説明	<i>kbytes</i>	最大バッファサイズ (キロバイト単位)。範囲は 1 ~ 10 です。デフォルト値は 4 です。
コマンド デフォルト	4 KB	
コマンド モード	アプリケーション コンフィギュレーション モニタ	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(14)T	call application interface event-log max-buffer-size コマンドを置き換える目的でこのコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

イベントログバッファがこのコマンドで設定された制限に達すると、ゲートウェイでは同じサイズの 2 番目のバッファを割り当てます。 **show call application interface** コマンドを使用すると、両方のバッファの内容が表示されます。最初のイベントログバッファが満杯になると、 **interface event-log dump ftp** コマンドが使用されている場合、ゲートウェイではその内容を外部 FTP の場所に自動的に追加します。

イベントログには最大 2 つのバッファが割り当てられます。両方のバッファが満杯になると、最初のバッファが削除され、新しいイベント用に別のバッファが割り当てられます (バッファはラップアラウンドします)。 **interface event-log dump ftp** コマンドが設定され、最初のバッファがダンプされる前に 2 番目のバッファが満杯になった場合、イベントメッセージはドロップし、バッファには記録されません。

例

次の例では、最大バッファサイズを 8 KB に設定します。

```
application
monitor
interface event-log max-buffer-size 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
call application interface event-log max-buffer-size	各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
interface dump event-log	外部ファイルへのアプリケーションインターフェイスのイベントログバッファをフラッシュします。
interface event-log dump ftp	ゲートウェイによってインターフェイスイベントログバッファの内容を外部ファイルに書き込めるようにします。
interface max-server-records	保存されるアプリケーションインターフェイス レコードの最大数を設定します。
show call application interface	アプリケーション インターフェイスのイベントログと統計を表示します。

interface max-server-records

保存されるアプリケーションインターフェイスレコードの最大数を設定するには、アプリケーション コンフィギュレーション モニタ モードで **interface max-server-records** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface max-server-records number
no interface max-server-records
```

構文の説明	<i>number</i> 保存するレコードの最大数。範囲は1～100です。デフォルト値は10です。
-------	--

コマンド デフォルト 10

コマンド モード アプリケーション コンフィギュレーション モニタ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(14)T	call application interface max-server-records コマンドを置き換える目的でこのコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 最近アクセスされたサーバーからの指定された数のレコードのみが保持されます。

例 次の例では、保存されるレコードの最大数を 50 に設定しています。

```
application
monitor
interface max-server-records 50
```

関連コマンド	コマンド	説明
	call application interface max-server-records	保存されるアプリケーションインターフェイスレコードの最大数を設定します。
	interface event-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベントロギングを有効化します。
	interface event-log max-buffer-size	各アプリケーションインターフェイスのイベントログバッファの最大サイズを設定します。
	show call application interface	アプリケーション インターフェイスのイベントログと統計を表示します。

interface stats

アプリケーション インターフェイスの統計情報収集を有効化するには、アプリケーション コンフィギュレーション モニタモードで **interface stats** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface stats
no interface stats

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

統計情報の収集はディセーブルになっています。

コマンド モード

アプリケーション コンフィギュレーション モニタ

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(14)T	call application interface stats コマンドを置き換える目的でこのコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドで有効化したインターフェイスの統計情報を表示するには、**show call application interface** コマンドを使用します。インターフェイスカウンタをゼロにリセットするには、**clear call application interface** コマンドを使用します。

例

次の例では、アプリケーション インターフェイスの統計情報収集を有効化していません。

```
application
monitor
interface stats
```

関連コマンド

コマンド	説明
call application interface stats	アプリケーション インターフェイスの統計情報収集を有効化します。
clear call application interface	アプリケーション インターフェイスの統計情報またはイベントログをクリアします。
interface event-log	音声アプリケーションで使用される外部インターフェイスのイベントロギングを有効化します。
show call application interface	アプリケーション インターフェイスのイベントログと統計を表示します。

コマンド	説明
stats	音声アプリケーションの統計情報収集を有効化します。

interop-handling permit request-uri userid none

相互運用処理を有効化するには、sip-ua モードで **interop-handling** コマンドを実行します。無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interop-handling permit request-uri userid none [system]

no interop-handling permit request-uri userid none

構文の説明

request uri	request-uri 関連の相互運用性。
user-id	request-uri のユーザ ID
none	request-uri にユーザ ID がありません。
system	相互運用処理がグローバル sip-ua 値を使用するように指定します。このキーワードは、テナントモードでのみ使用でき、グローバル コンフィギュレーションにフォールバックできます。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

SIP UA コンフィギュレーション
音声クラステナント コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS 15.6(2)T および Cisco IOS XE Denali 16.3.1	このコマンドは、 system キーワードを含むように変更されました。このコマンドは、音声クラステナントで使用できるようになりました。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行すると、相互運用処理が有効化されます。

例

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# sip-ua
Device(config-sip-ua)# interop-handling permit request-uri userid none
```

音声クラステナントモードの場合：

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice class tenant 1
Device(config-class)# interop-handling permit request-uri userid none
```

ip address trusted

デバイスの不正通話防止機能を設定するには、音声サービス コンフィギュレーション モードで **ip address trusted** コマンドを使用します。設定を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip address trusted {authenticate | call-block cause コード | list}
no ip address trusted {authenticate | call-block cause | list}
```

構文の説明

authenticate	着信 H.323 または Session Initiation Protocol (SIP) トランクコールで IP アドレス認証を有効化します。
call-block cause code	IP アドレス認証の失敗による着信拒否時に、原因コードを発行できるようにします。デフォルトでは、デバイスはコール拒否 (21) 原因コードを発行します。
list	信頼できる IP アドレス一覧への IPv4 および IPv6 アドレスの手動追加を有効化します。

コマンド デフォルト

不正通話防止機能が有効化されています。

コマンド モード

音声サービス コンフィギュレーション (config-voi-serv)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(2)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	YANG モデルでのサポートが導入されました。

使用上のガイドライン

ip address trusted コマンドを使用して、デバイスのデフォルトの動作を変更します。それにより VoIP の送信元からのコールセットアップを信頼しません。このコマンドの導入により、デバイスではコールをルーティングする前にコールセットアップの送信元 IP アドレスをチェックします。

送信元 IP アドレスが、信頼できる VoIP の送信元である信頼できる IP アドレス一覧のエントリと一致しない場合、デバイスはコールを拒否します。信頼できる IP アドレス一覧を作成するには、音声サービス コンフィギュレーション モードで **ip address trusted list** コマンドを使用するか、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **session target** コマンドを使用して設定された IP アドレスを使用します。IP アドレス認証の失敗により着信拒否された場合に、原因コードを発行できます。

例

次の例では、不正通話防止機能として、H.323 または SIP トランクの着信コールの IP アドレス認証を有効化する方法を示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# ip address trusted authenticate
```

次の例では、拒否されたコールの数を表示しています。

```
Device# show call history voice last 1 | inc Disc

DisconnectCause=15
DisconnectText=call rejected (21)
DisconnectTime=343939840 ms
```

次の例では、エラーメッセージコードとエラーの説明を表示しています。

```
Device# show call history voice last 1 | inc Error

InternalErrorCode=1.1.228.3.31.0
```

次の例では、エラーの説明を表示しています。

```
Device# show voice iec description 1.1.228.3.31.0

IEC Version: 1
Entity: 1 (Gateway)
Category: 228 (User is denied access to this service)
Subsystem: 3 (Application Framework Core)
Error: 31 (Toll fraud call rejected)
Diagnostic Code: 0
```

次の例では、IP アドレス認証が失敗したことによって着信コールが拒否された場合に原因コードを発行する方法を示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# ip address trusted call-block cause call-reject
```

次の例では、信頼できる IP アドレス一覧への IP アドレスの追加を有効化する方法を示しています。

```
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# ip address trusted list
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug voip ccapi inout	呼制御 API を介して実行パスをトレースします。
show call history voice	音声コールの履歴テーブルを表示します。
show ip address trusted list	着信 H.323 または SIP トランク コール用の有効な IP アドレスのリストを表示します。
voice iec syslog	発生した内部エラーコードをリアルタイムで表示できます。

ip circuit

IP 仮想トランクグループにキャリア ID を作成し、IP グループの最大キャパシティを作成するには、**ip circuit** コマンドを使用します。トランクグループまたは最大キャパシティを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip circuit {carrier-id carrier-name [reserved-calls reserved] | max-calls maximum-calls | default
{only | name carrier-name}}
no ip circuit {carrier-id carrier-name | default {only | name carrier-name}}
```

構文の説明

carrier-id	特定のキャリアに関連付けられた IP 回線を設定します。
<i>carrier-name</i>	指定された名前を回線 ID として使用して IP 回線を定義します。
reserved-calls <i>reserved</i>	(オプション) 回線 ID の最大コール数を指定します。デフォルト値は200です。
max-calls <i>maximum-calls</i>	H.323 IP 回線キャリアコールレグの最大集約数を設定します。デフォルト値は 1000 です。
default only	デフォルトのキャリア名を使用して単一のキャリアを作成します。
default name	デフォルトの回線名を変更します。
<i>carrier-name</i>	デフォルトのキャリア名。

コマンド デフォルト

このコマンドが指定されていない場合、IP キャリアと最大コールレグ値は定義されません。

コマンド モード

H.323 音声サービス コンフィギュレーション (conf-serv-h323)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(13)T3	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ip circuit コマンドは、アクティブなコールがない場合にのみ使用できます。複数のキャリア ID を定義でき、順序は関係ありません。IP 回線のデフォルトに限り、回線キャリア ID でキャリアを定義することと相互に排他的です。

ip circuit default only が指定されている場合、最大コール値は 1,000 に設定されます。

例

次の例では、デフォルトの回線と最大コール数を指定しています。

```
voice service voip
no allow-connections any to pots
no allow-connections pots to any
allow-connections h323 to h323
h323
```

```
ip circuit max-calls 1000
ip circuit default only
```

次の例では、デフォルトのキャリアと着信送信元キャリアを指定しています。

```
voice service voip
no allow-connections any to pots
no allow-connections pots to any
allow-connections h323 to h323
h323
ip circuit carrier-id AA reserved-calls 200

ip circuit max-calls 1000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show crm	このコマンドで設定された値の一部を表示します。
voice-source group	着信 VoIP コールの識別と変換に使用される一連の送信元 IP グループ特性に名前を割り当てます。

ip dhcp-client forcerenew

認証が有効の場合に DHCP クライアントで forcerenew-message 処理を有効化するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip dhcp-client forcerenew** コマンドを使用します。強制認証を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip dhcp-client forcerenew
no ip dhcp-client forcerenew

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

強制更新メッセージはドロップされます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0 (1) M	このコマンドが、Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

DHCP forcerenew 処理は、CLI が設定されるまで有効化されません。

例

次の例では、DHCP クライアントで DHCP forcerenew-message 処理を有効化する方法を示しています。

```
Router(config)# ip dhcp-client forcerenew
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dhcp client authentication key-chain	DHCP 認証要求で使用するキーチェーンを指定します。
ip dhcp client authentication mode	インターフェイスの DHCP メッセージで使用する認証のタイプを指定します。
key chain	ルーティングプロトコルの認証キーのグループを指定します。

ip precedence (dial-peer)

ダイヤルピアによって送信されるパケットの IP 優先度（優先順位）を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **ip precedence** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip precedence *number*
no ip precedence *number*

構文の説明

<i>number</i>	IP 優先度の値を指定する整数。範囲は、0～7です。値 0 は、優先度（優先順位）が設定されていないことを意味します。デフォルトは 0 です。
---------------	---

コマンドデフォルト

このコマンドのデフォルト値はゼロ（0）です。

コマンドモード

ダイヤルピア コンフィギュレーション（config-dial-peer）

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)NA	このコマンドが Cisco 2500 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco AS5300 のプラットフォームに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、音声データパケットが IP ネットワーク経由で送信される際に IP 優先度フィールドに設定される値を構成します。このコマンドは、IP リンクの使用率が高く、音声パケットのサービス品質の優先順位を他の IP パケットよりも高くする必要がある場合に使用する必要があります。また、このコマンドは、RSVP が有効化されておらず、ユーザが音声パケットに他の IP データトラフィックよりも高い優先順位を与える場合に使用する必要があります。

このコマンドは、VoIP ピアに適用されます。

例

次の例では、IP 優先度を 5 に設定します。

```
dial-peer voice 10 voip
 ip precedence 5
```

ip qos defending-priority

Quality of Service (QoS) を決定する Resource Reservation Protocol (RSVP) 保護の優先順位値を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos defending-priority** コマンドを使用します。QoS 要素としての RSVP 保護優先順位を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip qos defending-priority *defending-pri-value*
no ip qos defending-priority

構文の説明	<i>defending-pri-value</i>	QoS 優先順位を決定するための RSVP 保護優先順位値。有効なエントリーは 0 ~ 65,535 です。
-------	----------------------------	--

コマンド デフォルト RSVP 保護優先順位値は無効化されており、QoS を決定する要因にはなりません。

コマンド モード ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン RSVP 保護優先順位値を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos defending-priority** コマンドを使用します。保護優先順位値は、予約の開始時に QoS モジュールに渡されます。すべてのコールをサポートする十分な帯域幅がない状況では、この設定により、新しいコールのプリエンプションの優先順位が既存のコールの保護優先順位よりも高くない限り、既存のコールが新しいコールによってプリエンプション処理されることを回避できます。

例 次の例では、RSVP 保護優先順位値を指定する方法を示しています。

```
dial-peer voice 100 voip
 ip qos defending-priority 1111
```

関連コマンド	コマンド	説明
	acc-qos	VoIP ダイヤルピアのすべてのインバウンドコールおよびアウトバウンドコールで、受け入れ可能な QoS を定義します。
	ip qos dscp	QoS の DSCP 値を設定します。
	ip qos policy-locator	RSVP のアプリケーション ID を設定します。
	ip qos preemption-priority	RSVP プリエンプション優先順位値を設定します。

コマンド	説明
ip rsvp policy preempt	RSVPが優先順位の低い予約から帯域幅を取得し、それを新しい優先順位の高い予約に割り当てることができるようにします。
req-qos	VoIPで指定されたダイヤルピアに到達する場合にRSVPを使用して特定のQoSを要求します。
show-sip-ua calls	Cisco IOSデバイスでのSIPコールのアクティブなUACおよびUAS情報を表示します。
voice-class sip rsvp-fail-policy	RSVP障害ポリシーを設定します。

ip qos dscp

Quality of Service (QoS) の Differentiated Services Code Point (DSCP; DiffServ コードポイント) 値を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos dscp** コマンドを使用します。QoS 要素としての DSCP を無効化するには、DSCP 値を **default** に設定します (値を 000000 ビットパターンに設定します)。DSCP 値をデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip qos dscp {dscp-valueset-afset-cs | default | ef} {signaling | media [{rsvp-pass | rsvp-fail}] | video
[ {rsvp-none | rsvp-pass | rsvp-fail} ]}
no ip qos dscp {dscp-valueset-afset-cs | default | ef} {signaling | media [{rsvp-pass | rsvp-fail}]
| video [ {rsvp-none | rsvp-pass | rsvp-fail} ]}
```

構文の説明

<i>dscp-value</i>	DSCP 値。有効なエント리는 0 ~ 63 です。	
<i>set-af</i>	DSCP 値として保証された転送ビットパターン :	
	<ul style="list-style-type: none"> • af11 --ビットパターン 001010 • af12 --ビットパターン 001100 • af13 --ビットパターン 001110 • af21 --ビットパターン 010010 • af22 --ビットパターン 010100 • af23 --ビットパターン 010110 	<ul style="list-style-type: none"> • af31 --ビットパターン 011010 • af32 --ビットパターン 011100 • af33 --ビットパターン 011110 • af41 --ビットパターン 100010 • af42 --ビットパターン 100100 • af43 --ビットパターン 100110
<i>set-cs</i>	DSCP 値としてのクラスセクタ コードポイント :	
	<ul style="list-style-type: none"> • cs1 - コードポイント 1 (優先順位 1) • cs2 - コードポイント 2 (優先順位 2) • cs3 - コードポイント 3 (優先順位 3) • cs4 - コードポイント 4 (優先順位 4) 	<ul style="list-style-type: none"> • cs5 - コードポイント 5 (優先順位 5) • cs6 - コードポイント 6 (優先順位 6) • cs7 - コードポイント 7 (優先順位 7)
default	DSCP 値としてデフォルトのビットパターン 000000 を指定します。	

ef	DSCP 値として Expedited Forwarding (EF; 完全優先転送) ビットパターン 101110 を指定します。
signaling	DSCP 値がシグナリングパケットに適用されるように指定します。
media	DSCP 値がメディアパケット (音声および FAX) に適用されるように指定します。
rsvp-pass	(オプション) Resource Reservation Protocol (RSVP) 予約が成功したパケットに DSCP 値が適用されるように指定します。
rsvp-fail	(オプション) RSVP 予約が失敗したパケット (メディアまたはビデオ) に DSCP 値が適用されるように指定します。
video	DSCP 値がビデオパケットに適用されるように指定します。このオプションは、Cisco Unified Border Element の Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) に対してのみ有効です。
rsvp-none	(オプション) RSVP 予約のないビデオパケットに DSCP 値を適用するように指定します (ビデオパケットに対してのみ有効)。

コマンド デフォルト DSCP のデフォルト値は次のとおりです。

- すべてのシグナリングパケットのデフォルトの DSCP 値は **af31** です。
- すべてのメディア (音声および FAX) パケットのデフォルトの DSCP 値は **ef** です。
- すべてのビデオパケットのデフォルトの DSCP 値は **af41** です。

コマンド モード ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)T	このコマンドが導入されました。 ip precedence (ダイヤルピア) コマンドを置き換えました。
12.3(4)T	このコマンドが変更されました。ビデオストリームの DSCP 構成をサポートするためのキーワードが追加されました。
12.4(22)T	このコマンドが変更されました。指定された (成功または失敗した) RSVP 接続を使用して、メディア (音声および FAX) パケットに DSCP 値を適用するためのキーワードが追加されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 3.3S	このコマンドは Cisco IOS XE リリース 3.3S に統合されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートが開始されました。

使用上のガイドライン

音声、シグナリング、ビデオトラフィックの優先順位を設定するには、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードで **ip qos dscp** コマンドを使用します。メディア（音声および FAX）パケットの推奨値は、シグナリングパケット用です。推奨値は **ef** です。ビデオパケットの場合は **af31af41** です（すべてデフォルト）。

さらに、RSVP QoS を指定する前に、まず **ip RSVP bandwidth** コマンドを使用して、IP インターフェイスで RSVP を有効化する必要があります。

例

次の例では、DSCP 値をクラスセクタコードポイント値 1 に設定し、RSVP が設定されていないメディア（音声および FAX）ペイロードパケットにその DSCP 設定を適用する方法を示しています。

```
dial-peer voice 1 voip
 ip qos dscp cs1 media
```

次の例では、DSCP 値を Expedited Forwarding (EF; 完全優先転送) ビットパターンに設定し、RSVP 接続が成功したメディア（音声および FAX）ペイロードパケットにその DSCP 設定を適用する方法を示しています。

```
dial-peer voice 1 voip
 ip qos dscp ef media rsvp-pass
```

次の例では、DSCP 値を相対的優先転送コードポイント値 22 に設定し、その DSCP 設定をすべてのシグナリングパケットに適用する方法を示しています。

```
dial-peer voice 1 voip
 ip qos dscp af22 signaling
```

次の例では、DSCP 値を相対的優先転送コードポイント値 43 に設定し、RSVP 接続が成功したビデオパケットにその DSCP 設定を適用する方法を示しています。

```
dial-peer voice 100 voip
 ip qos dscp af43 video rsvp-pass
```

関連コマンド

コマンド	説明
call rsvp-sync	RSVP シグナリングと音声シグナリングプロトコル間の同期を有効化します。
ip qos defending-priority	RSVP 保護の優先順位値を設定します。
ip qos policy-locator	RSVP のアプリケーション ID を設定します。

コマンド	説明
ip qos preemption-priority	RSVP プリエンプションの優先順位値を設定します。
ip rsvp bandwidth	インターフェイスで IP 用 RSVP をイネーブルにします。
ip rsvp signalling dscp	インターフェイスの RSVP メッセージで使用される DSCP 構成を設定します。

ip qos policy-locator

Cisco IOS Session Initiation Protocol (SIP) デバイスで帯域幅予約を指定するための Resource Reservation Protocol (RSVP) ポリシーを展開するために使用される Quality of Service (QoS) ポリシーロケータ (アプリケーションID) を設定するには、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードで **ip qos policy-locator** コマンドを使用します。アプリケーションポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip qos policy-locator {**video**|**voice**} [**app** *app-string*] [**guid** *guid-string*] [**sapp** *subapp-string*] [**ver** *version-string*]
no ip qos policy-locator {**video**|**voice**} [**app** *app-string*] [**guid** *guid-string*] [**sapp** *subapp-string*] [**ver** *version-string*]

構文の説明

video	アプリケーション ID がビデオストリームの RSVP に適用されるように指定します。
voice	アプリケーション ID が音声ストリームの RSVP に適用されるように指定します。
app	(オプション) アプリケーションを指定します。
<i>app-string</i>	アプリケーション ID。1 ~ 31 の英数字で構成されます。
guid	(オプション) グローバル固有識別子 (GUID) を指定します。
<i>guid-string</i>	GUID。1 ~ 31 の英数字で構成されます。
sapp	(オプション) サブアプリケーションを指定します。
<i>sapp-string</i>	サブアプリケーション ID。1 ~ 31 の英数字で構成されます。
ver	(オプション) バージョンを指定します。
<i>ver-string</i>	バージョン ID。1 ~ 15 の英数字で構成されます。

コマンド デフォルト

ポリシーは指定されていません。

コマンド モード

ダイヤルピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco IOS ソフトウェアでは、RSVP によって複数の帯域幅プールを参照してリクエストを処理し、受け付けることができます。Cisco IOS SIP デバイスのローカルポリシーの一致基準の精度を高めるために、帯域幅プールにアプリケーション ID に基づくポリシーを含めることができます。これらのアプリケーション固有の ID を使用して、指定された帯域幅制限に達するまで、それぞれの帯域幅を予約できます。

1つのアプリケーションタイプですべての帯域幅を消費しないように、RFC 2872『Application and Sub Application Identity Policy Element for Use with RSVP』によって、別の帯域幅予約プールの作成が許可されます。たとえば、これらのアプリケーション ID でタグ付けされている予約が、RSVP ローカルポリシーを使用して、インターフェイス帯域幅プールに一致するようにするため、ある RSVP 予約プールを音声トラフィックに作成し、別のプールをビデオトラフィックに作成できます。しかし、アプリケーションごとに帯域幅を制限するには、各アプリケーションに帯域幅の限度を設定し、アプリケーションを適切な帯域幅の限度と関連付ける、それぞれの予約フラグを設定する必要があります。

ただし、アプリケーション固有のポリシーの帯域幅制限を設定する前に、アプリケーション ID を作成する必要があります。アプリケーション ID (アプリケーション固有の予約プロファイル) を作成するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos policy-locator** コマンドを使用します。必要なアプリケーション ID を作成したら、「関連コマンド」セクションに記載されている適切なコマンドを使用して、帯域幅予約を設定できます。ただし、この機能は、Cisco IOS リリース 12.4(22)T 以降のリリースを実行しているサポート対象デバイスでのみ使用できます。

SIP RSVP 機能の設定の詳細については、『Cisco IOS SIP コンフィギュレーション ガイド』の「SIP RSVP 機能の設定」の章を参照してください。アプリケーション固有のポリシー機能に関する一般的な情報については、『Cisco IOS Quality of Service ソリューション コンフィギュレーション ガイド』の「シグナリング」にある RSVP に関するセクションの、「RSVP の設定」の章を参照してください。

例

次の例では、アプリケーション ID にポリシーを設定する方法を示しています。

```
dial-peer voice 100 voip
 ip qos policy-locator voice app MyApp1 sapp MySubApp4
```

関連コマンド

コマンド	説明
acc-qos	VoIP ダイヤルピアのすべてのインバウンドコールおよびアウトバウンドコールで、受け入れ可能な QoS を定義します。
handle-replaces	SIP INVITE のレガシー処理へのフォールバックを設定します。
ip qos defending-priority	RSVP 保護の優先順位値を設定します。
ip qos dscp	QoS の DSCP 値を設定します。
ip qos preemption-priority	RSVP プリエンプションの優先順位値を設定します。
ip rsvp bandwidth	インターフェイスで IP 用 RSVP をイネーブルにします。
ip rsvp policy default-reject	既存の RSVP ポリシーに一致しないすべてのメッセージのブロッキングまたはパスを設定します。
ip rsvp policy identity	RSVP ポリシーを展開するために使用される RSVP アプリケーション ID を定義します。

コマンド	説明
ip rsvp policy preempt	RSVPが優先順位の低い予約から帯域幅を取得し、それを新しい優先順位の高い予約に割り当てることができるようにします。
maximum (local policy)	RSVP リソースを制限するローカルポリシーを設定します。
preempt-priority	PATH および RESV メッセージがアップストリームまたはダウンストリームネイバーまたはローカルクライアントアプリケーションからのシグナリングがない場合に、それらのメッセージに RSVP QoS の優先順位を設定します。
req-qos	VoIP で指定されたダイヤルピアに到達する場合に RSVP を使用して特定の QoS を要求します。
show sip-ua calls	SIP コールに関するアクティブな UAC および UAS 情報を表示します。
voice-class sip rsvp-fail-policy	RSVP ネゴシエーションが失敗したときに実行されるアクションを指定します。

ip qos preemption-priority

Quality of Service (QoS) を決定するための Resource Reservation Protocol (RSVP) プリエンプションの優先順位値を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos preemption-priority** コマンドを使用します。QoS 要素としてプリエンブションの優先順位を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip qos preemption-priority *preemption-pri-value*
no ip qos preemption-priority

構文の説明	<i>preemption-pri-value</i>	QoS プライオリティを決定するための RSVP プリエンプションの優先順位値。有効なエントリは 0 ~ 65,535 です。
-------	-----------------------------	---

コマンド デフォルト RSVP プリエンプションの優先順位値は無効化されており、QoS を決定する要因にはなりません。

コマンド モード ダイヤル ピア設定 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン RSVP プリエンプションの優先順位値を設定するには、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで **ip qos preemption-priority** コマンドを使用します。プリエンブションの優先順位値は、予約の開始時に QoS モジュールに渡されます。すべてのコールをサポートするのに十分な帯域幅がない状況では、この設定により、既存のコールのプリエンブションの優先順位が新しいコールのプリエンブションの優先順位よりも高くない限り、新しいコールが既存のコールをプリエンブションできます。

例 次の例では、RSVP プリエンプションの優先順位値を指定する方法を示しています。

```
dial-peer voice 100 voip
 ip qos preemption-priority 1111
```

関連コマンド	コマンド	説明
	acc-qos	VoIP ダイヤルピアのすべてのインバウンドコールおよびアウトバウンドコールで、受け入れ可能な QoS を定義します。
	ip qos dscp	QoS の DSCP 値を設定します。
	ip qos policy-locator	RSVP のアプリケーション ID を設定します。

コマンド	説明
ip qos defending-priority	RSVP の保護優先順位値を設定します。
ip rsvp policy preempt	RSVP が優先順位の低い予約から帯域幅を取得し、それを新しい優先順位の高い予約に割り当てることができるようにします。
req-qos	VoIP で指定されたダイヤルピアに到達する場合に RSVP を使用して特定の QoS を要求します。
show-sip-ua calls	Cisco IOS デバイスでの SIP コールのアクティブな UAC および UAS 情報を表示します。
voice-class sip rsvp-fail-policy	RSVP 障害ポリシーを設定します。

ip rtcp report interval

次の Real-Time Control Protocol (RTCP) レポート送信の平均レポート間隔を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ip rtcp report interval** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rtcp report interval value
no ip rtcp report interval

構文の説明	<i>value</i> RTCP レポート送信の平均間隔 (ミリ秒)。範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトは 5000 です。
-------	--

コマンド デフォルト 5000 ms

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。
	12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800 に導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、特定の音声セッションに対する連続する RTCP レポート送信間の平均間隔を設定します。たとえば、*value* 引数が 25,000 ミリ秒に設定されている場合、RTCP レポートは平均 25 秒ごとに送信されます。

詳細については、RFC 1889『[RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications](#)』を参照してください。

例

次に、レポート間隔を 5,000 ミリ秒に設定する例を示します。

```
Router(config)# ip rtcp report interval 5000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug ccsip events	すべての SIP SPI イベントトレースを表示し、すべてのインターフェイスから SIP SPI にポストされたイベントをトレースします。
	timer receive-rtcp	RTCP タイマーを有効化し、RTCP タイマー間隔の倍率を設定します。

ip rtcp sub-rtcp

sub-Real-Time Control Protocol (RTCP) メッセージタイプを指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip rtcp sub-rtcp** コマンドを使用します。この設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rtcp sub-rtcp message-type number
no ip rtcp sub-rtcp message-type

構文の説明	<i>message-type</i>	メッセージタイプ。詳細については、疑問符 (?) オンラインヘルプ機能を使用します。
	<i>number</i>	メッセージ番号。範囲は 209 ~ 255 です。デフォルトは 209 です。 ネットワークデバイスに対する番号付け構文の詳細については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。

コマンド デフォルト RTP ペイロードタイプはデフォルト値の 209 に設定されています。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	15.0(1)M	このコマンドは、Cisco IOS リリース 15.0(1)M よりも前のリリースに導入されました。

例 次の例では、サブ RTCP メッセージタイプを指定する方法を示しています。

```
Router# configure terminal
Router(config)# ip rtcp sub-rtcp message-type 210
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip rtcp report interval	後続の RTCP レポートを送信する平均レポート間隔を設定します。

ip udp checksum

ダイヤルピアによって送信された音声パケットの UDP チェックサムを計算するには、ダイヤルピア コンフィギュレーションモードで **ip udp checksum** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip udp checksum
no ip udp checksum

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト ディセーブル

コマンド モード ダイヤルピア コンフィギュレーション (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、各アウトバウンド音声パケットの UDP チェックサム計算を有効化します。このコマンドは、音声パケットの送信を高速化するために、デフォルトでは無効化されています。接続のエラー率が高いと思われる場合は、このコマンドを有効化して、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) に破損した音声パケットが転送されるのを防止する必要があります。

このコマンドは、VoIP ピアに適用されます。



(注) Cisco IOS リリース 12.3(4)T より前のイメージを使用する場合に Cisco AS5850 のパフォーマンスと拡張性を維持するには、UDP チェックサムで 10% 以下のアクティブコールを有効にします。

例

次の例では、ダイヤルピア 10 によって送信された音声パケットの UDP チェックサムを計算しています。

```
dial-peer voice 10 voip
ip udp checksum
```

関連コマンド

Command	Description
loop -detect	Voice over ATM、Voice over Frame Relay、Voice over HDLC の T1 のループ検出を有効化します。

ip vrf

VPN ルーティング/転送 (VRF) ルーティングテーブルを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードまたはルータ コンフィギュレーション モードで **ip vrf** コマンドを使用します。VRF ルーティングテーブルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip vrf *vrf-name*
no ip vrf *vrf-name*

構文の説明	<i>vrf-name</i> VRFに割り当てる名前です。
コマンド デフォルト	VRF は定義されていません。
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション ルータ コンフィギュレーション
コマンド履歴	リリース 変更内容 Cisco IOS 12.0(5)T このコマンドが導入されました。

例

```
Device# enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip vrf VRF1
```


ip vrf forwarding

VPN ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスをインターフェイスまたはサブインターフェイスに関連付けるには、グローバル コンフィギュレーション モードまたはインターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip vrf forwarding** コマンドを使用します。ARF の関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip vrf forwarding *vrf-name*
no ip vrf forwarding *vrf-name*

構文の説明

vrf-name VRF に割り当てる名前です。

コマンド デフォルト

インターフェイスのデフォルトは、グローバル ルーティング テーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション
 インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS 12.0(5)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスを VRF に関連付けるには、このコマンドを使用します。インターフェイスにこのコマンドを実行すると、IP アドレスが削除されます。IP アドレスを再設定する必要があります。

例

```
Device# enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface GigabitEthernet0/1
Device(config-if)# ip vrf forwarding VRF1
```

irq global-request

コール参照値 (CRV) をゼロに設定して情報要求 (IRQ) メッセージを送信するようにゲートキーパーを設定するには、ゲートキーパー コンフィギュレーションモードで **irq globalrequest** コマンドを使用します。ゲートキーパーによる IRQ メッセージの送信を無効化するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

irq global-request
no irq global-request

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ゲートキーパーでは、CRV をゼロに設定して IRQ メッセージを送信します。

コマンド モード

ゲートキーパー コンフィギュレーション (config-gk)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(11)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ゲートキーパーが初期化後にすべてのコールのステータスを要求した際に、CRV がゼロに設定された IRQ メッセージを送信しないようにします。IRQ メッセージを無効化すると、コール構造の再構築を次の IRR まで延期できる場合、または定期的な IRR メッセージの送信前にコールが終了してコール情報が不要になった場合は、不要な情報要求応答 (IRR) メッセージを排除できます。ゲートキーパーで直接帯域幅制御が使用されていない場合は、IRQ メッセージを無効化する方が有利です。

例

次の例では、IRQ メッセージがゲートキーパーから送信されないことを示しています。

```

.
.
.
  irq reject-resource-low
  no irq global-request
  timer lrq seq delay 10
  timer lrq window 6
  timer irr period 6
  no shutdown
.
.
.

```

関連コマンド

コマンド	説明
timer irr period	IRR タイマーを設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。